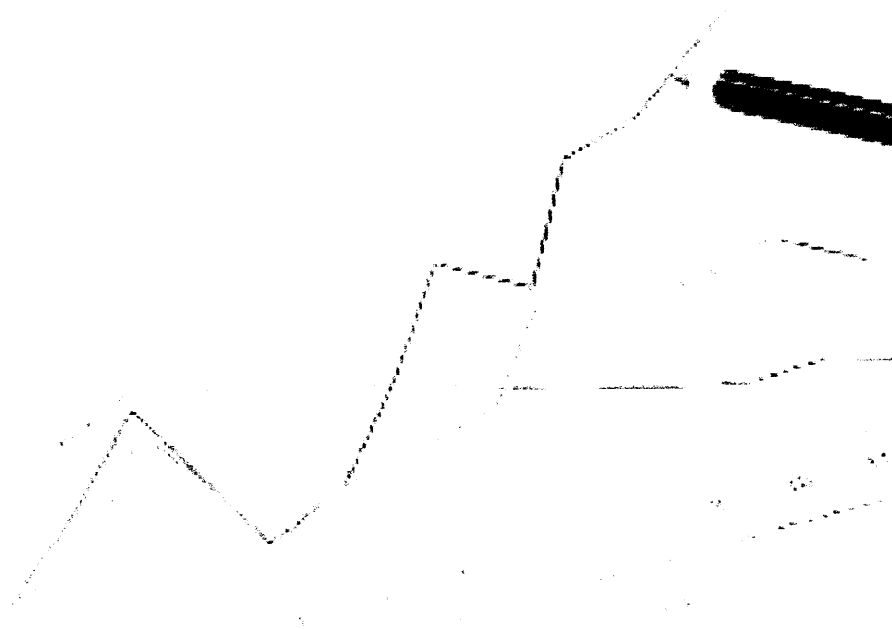


平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」

飯田市の結果分析報告書



平成 27 年 11 月

飯田市教育委員会事務局学校教育課

目 次

I	調査の実施状況	1
II	教科に関する飯田市の調査結果について	3
1	平成 27 年度の調査結果	
	□小学校調査	3
	・正答数分布グラフ（国語 A、国語 B、算数 A、算数 B、理科）	
	□中学校調査	5
	・正答数分布グラフ（国語 A、国語 B、数学 A、数学 B、理科）	
2	教科に関する同一学年群の学力水準の推移	7
3	各教科の設問別正答率と指導改善の方向	8
III	質問紙調査の回答も含めた飯田市の分析結果について	20
1	自分の考えや理由を言葉で記述して説明することに関して	20
	(1) 記述式問題の正答率	
	(2) 記述式問題の無解答率	
	(3) 算数・数学に対する関心・意欲・態度	
2	家庭学習の内容や方法に関して	22
3	小中連携・一貫教育の効果に関して	23
	(1) 学力向上『結い』プランの検証	
	(2) 小中学校の連携について	
4	地育力による学校支援・学習支援に関して	26
	(1) 児童生徒の地域へのかかわりについて	
	(2) 地域の学校支援・学習支援について	
IV	改善に向けた今後の取組について	29

I 調査の実施状況

- 1 実施日 平成 27 年 4 月 21 日（火）
- 2 対象学年 小学校第 6 学年 中学校第 3 学年

3 調査の内容

（１）教科に関する調査（国語・算数・数学・理科）

- ・主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

- ・主として「活用」に関する問題

知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

- ・理科は

主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題（前回調査は平成 24 年度実施）

（２）質問紙調査

- ・児童生徒に対する質問紙調査（小学校 87 問、中学校 87 問）
- ・学校に対する質問紙調査（小学校 112 問、中学校 110 問）

4 平成 27 年 4 月 21 日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

【小学校調査】

	実施学校数	児童数
飯田市（公立学校）	18 校	908 人
長野県（公立学校）	367 校	18,553 人
全 国（公立学校）	20,033 校	1,090,146 人

※ 対象となる児童のいない上村小学校は実施学校対象外

【中学校調査】

	実施学校数	生徒数
飯田市（公立学校）	9 校	974 人
長野県（公立学校）	191 校	18,550 人
全 国（公立学校）	9,731 校	1,079,303 人

5 分析と今後の取組

(1) 教育問題検討委員会による分析

- ・校長（2名）、教頭（6名）、分析サポーター（6名）、事務局（3名）で構成する検討委員会を設置して調査結果を分析し、課題と改善の方向を検討
- ・飯田市全体の分析結果を報告書にまとめ、教育委員会定例会、理事者、部長会、社会文教委員会に報告し、校長会、教頭会で授業改善に生かすよう指導

(2) 推進日程と今後の取組

	9月	10月	11月	12月
飯 田 市 教 育 委 員 会	[教育問題検討委員会] [分析サポーターの委嘱と分析] ・委嘱 7月17日 ・分析 9月1日～25日 第2回 9月30日（水） 第3回 10月28日（水） 第4回 適宜		■理事者、部長会で 報告説明 ■教育委員会定例会 で報告説明 ■市校長会で説明と 指導	■社会文教委員会 で報告説明 ■市教頭会で説明 と指導
		■県教委職員と連携 した飯田市結果分 析の検証（新）		

(3) 改善に向けた取組

- ・教育問題検討委員会は、飯田市教育委員会が所管する学校の課題や取組の成果を分析し、改善に向けた取組が進むよう提言する。
- ・提言を受け、市教委と学校は成果や改善の方向性を共有し、学校の改善に向けては校長と教頭がマネジメントし、教職員へ指導する。
- ・市教委は教育問題検討委員会の提言を受けた施策の立案と協議を行う。

(4) 保護者への説明と児童生徒への指導改善

- ・全校の保護者、該当学年の保護者等公表の対象を問わず、学校の立場で説明を行う。
- ・調査の目的を明示し、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題の調査結果は、分析結果を踏まえた今後の改善方策等について分かりやすく説明する。
- ・自校の結果については、教育上の効果や影響等を考慮し、単に学校単位での平均正答数や平均正答率などの数値は出さない。
- ・各児童生徒個人の調査結果については、全般的な学習状況の改善等（例：補充・補完指導等）につなげることが重要であることに留意し、個人票の返却など効果的に活用する。

Ⅱ 教科に関する飯田市の調査結果について

1 平成 27 年度の調査結果

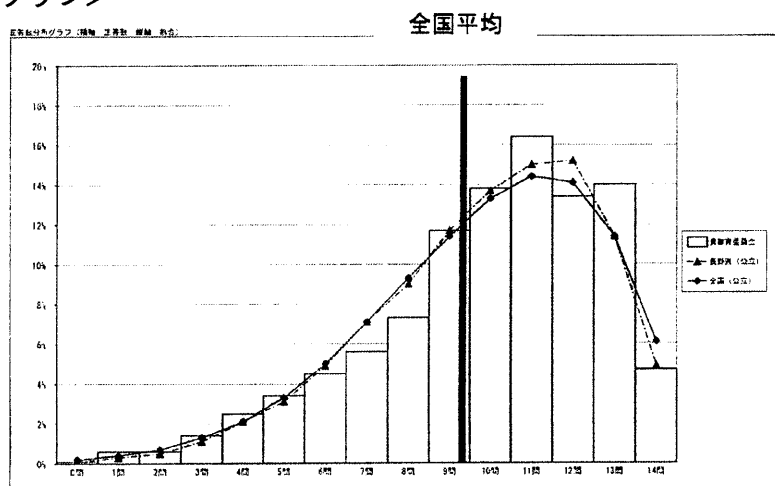
【小学校調査】

域区分	調査教科	学力の水準	
飯田市（公立）	国 語	○	◎：全国平均正答率より高い ○：全国平均正答率と同水準 △：全国平均正答率より低い
	算 数	○	
	理 科	○	
域区分	調査教科	平均正答率	平均正答数
長野県（公立）	国語 A	70.4	9.9 問/14 問
	国語 B	66.4	6.0 問/ 9 問
	算数 A	75.0	12.0 問/16 問
	算数 B	45.4	5.9 問/13 問
	理 科	61.3	14.7 問/24 問
全 国（公立）	国語 A	70.0	9.8 問/14 問
	国語 B	65.4	5.9 問/ 9 問
	算数 A	75.2	12.0 問/16 問
	算数 B	45.0	5.9 問/13 問
	理 科	60.8	14.6 問/24 問

<正答数分布グラフ>

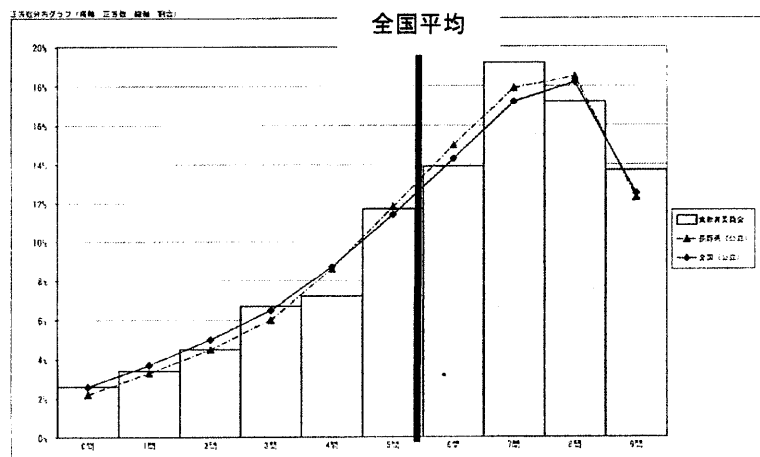
【国語 A】

設問数
14 問



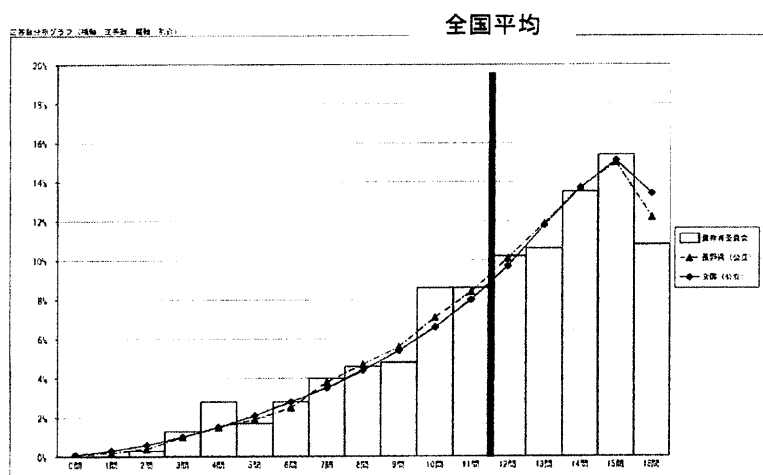
【国語 B】

設問数
9 問



[算数A]

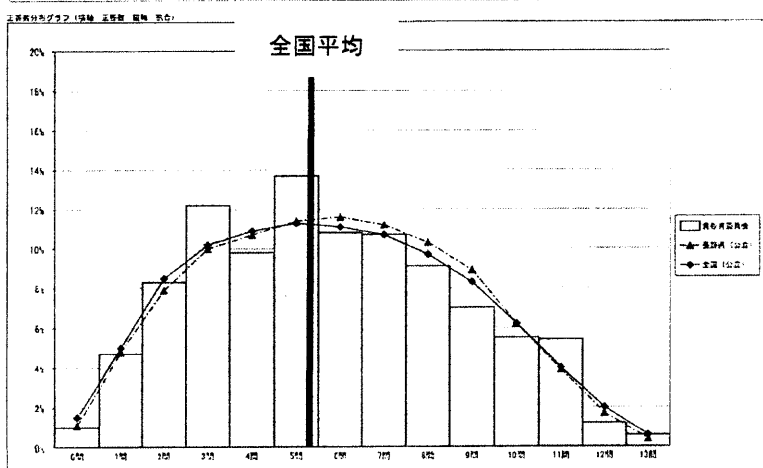
設問数
16問



◆ ▲ 棒
グラフ
:
:
:
全 長 飯
国 野 田
県 県 市

[算数B]

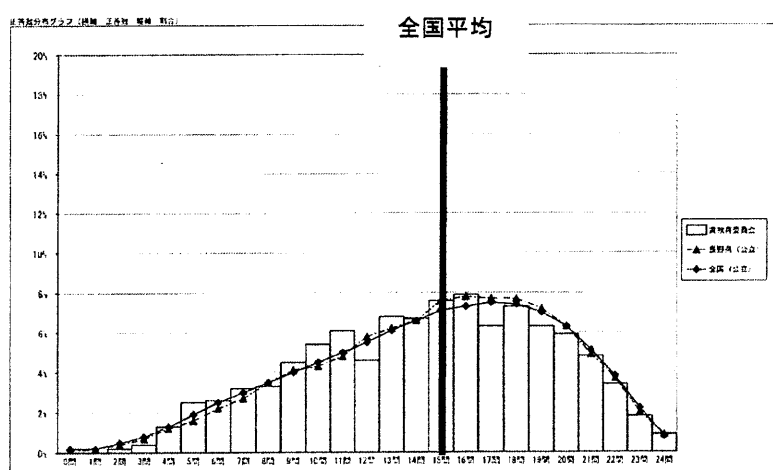
設問数
13問



◆ ▲ 棒
グラフ
:
:
:
全 長 飯
国 野 田
県 県 市

[理 科]

設問数
24問



◆ ▲ 棒
グラフ
:
:
:
全 長 飯
国 野 田
県 県 市

- 小学校では、すべての調査で全国平均と同水準であり、概ね良好な結果となった。算数Aが全国平均を僅かに下回った。
- 国語A、国語Bの正答数の分布状況は、正答数の少ない児童の割合が全国や長野県よりも低く、特に国語Bでは上位層の割合が全国や長野県よりも高い。
- 算数Aの分布状況は、全国や長野県と同じ傾向にある。算数Bの正答数の分布状況は、中位層よりやや低い層の分布が全国や長野県よりも高い。
- 理科の正答数の分布状況は、全国や長野県とほぼ同様な傾向にあるが、中位層よりやや低い層の分布が高くなっている。

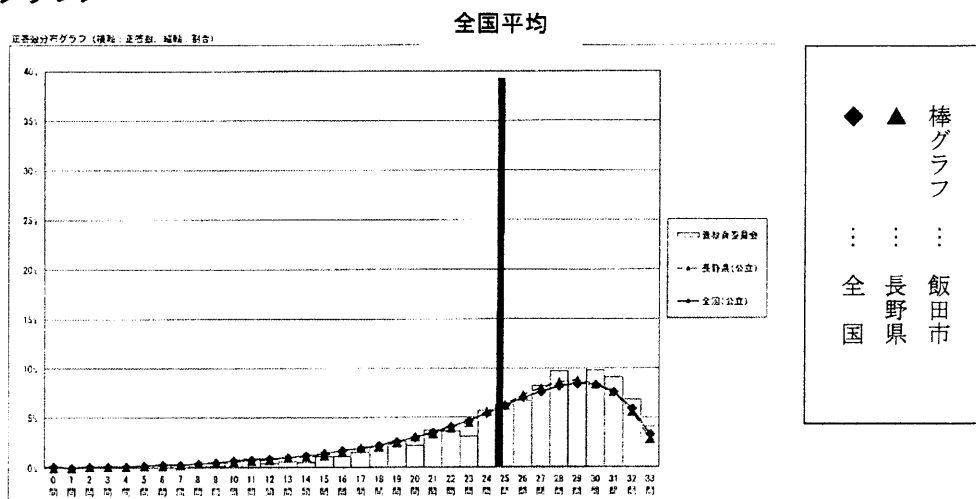
【中学校調査】

域区分	調査教科	学力の水準	◎：全国平均正答率より高い ○：全国平均正答率と同水準 △：全国平均正答率より低い
飯田市（公立）	国 語	◎	
	数 学	○	
	理 科	○	
域区分	調査教科	平均正答率	平均正答数
長野県（公立）	国語 A	76.2	25.2 問/33 問
	国語 B	65.0	5.9 問/ 9 問
	数学 A	63.5	22.9 問/36 問
	数学 B	40.6	6.1 問/15 問
	理 科	52.8	13.3 問/25 問
全 国（公立）	国語 A	75.8	25.0 問/33 問
	国語 B	65.8	5.9 問/ 9 問
	数学 A	64.4	23.2 問/36 問
	数学 B	41.6	6.2 問/15 問
	理 科	53.0	13.3 問/25 問

＜正答数分布グラフ＞

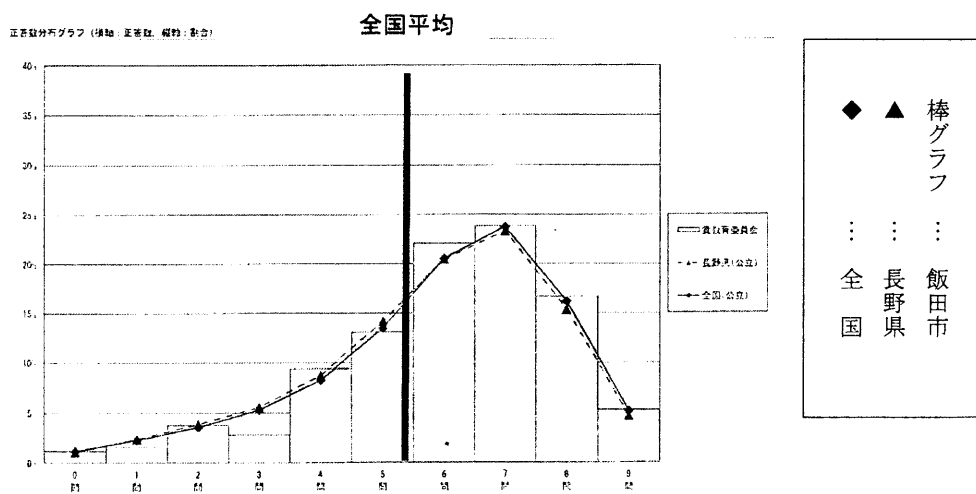
〔国語 A〕

設問数
33 問



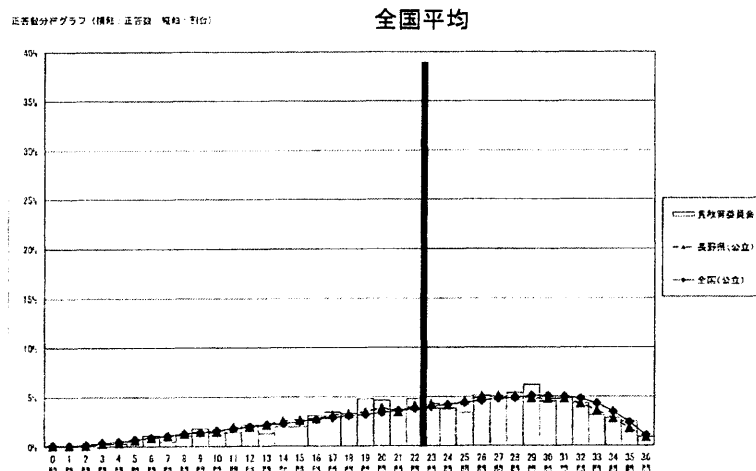
〔国語 B〕

設問数
9 問



[数学A]

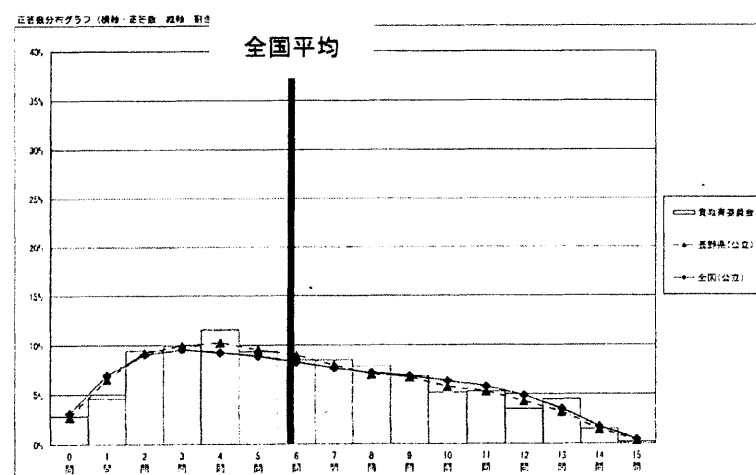
設問数
36問



棒グラフ
:
:
:
全国 長野県 飯田市

[数学B]

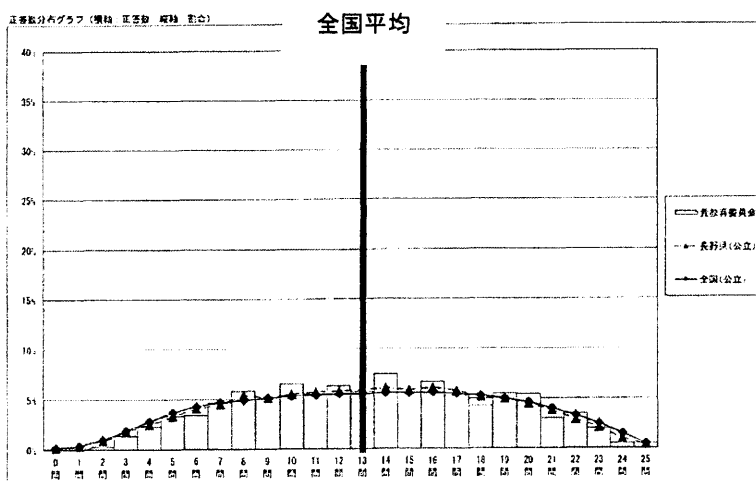
設問数
15問



棒グラフ
:
:
:
全国 長野県 飯田市

[理 科]

設問数
25問



棒グラフ
:
:
:
全国 長野県 飯田市

- 中学校では、国語が全国平均正答率より高く、数学と理科は全国平均と同水準であり、良好な結果となった。理科は全国平均を上回り、平成24年度調査実施時と比べ、改善が見られる。
- 国語Aの正答数の分布状況は、全国や長野県よりも上位層の割合が高い。国語Bの正答数の分布状況は、上位層は全国や長野県と同じ傾向であるが、低い層の割合が少ない。
- 数学Aの分布状況は、全国や長野県と同じ傾向にあるが、中位層から上位層の割合が高い。数学Bの正答数の分布状況は、全国や長野県と同じ傾向にある。
- 理科の分布状況は全国や長野県とほぼ同じ傾向にある。中位層から上位層の割合が高い。

2 教科に関する同一学年群の学力水準の推移

全国学力・学習状況調査は平成 19 年度から悉皆調査として始まったが、途中、抽出調査方式（H22 年度、H24 年度）になったり、東日本大震災の影響等（H23 年度）を考慮し見送ったりした経過がある。

飯田市は、平成 24 年度から悉皆調査として毎年実施し、この間の調査結果を累積してきた。

そこで、小学校第 6 学年で受検した児童が中学校第 3 学年の調査結果と比較した場合に、どのような学力水準の推移が見られるか検証することとした。下表（表 1）は、その状況を示している。

〔表 1〕「全国学力・学習状況調査」にみる小 6 生が中 3 生になった時の学力水準の推移

教 科	平成 24 年度 (小 6 時)	平成 27 年度 (中 3 時)	小 6 時と中 3 時の差
	学力の水準	学力の水準	学力水準の数値比較
国 語 A	◎	◎	+1.0
国 語 B	◎	◎	-1.4
算数・数学 A	◎	○	-3.2
算数・数学 B	◎	○	-1.5
理 科	◎	○	-1.0

□国語 A・B については、小 6 時の学力水準はともに「◎」で全国平均正答率より高く、中 3 時の学力水準も「◎」で全国平均正答率よりも高く良好な結果である。良好な結果ではあるが、小 6 時と中 3 時の差を数値で比較すると、国語 A は +1.0 で伸びを示し、国語 B は -1.4 と伸びきれていない状況が伺える。

□算数・数学 A・B については、小 6 時の学力水準はともに「◎」で全国平均正答率より高かったが、中 3 時の学力水準は「○」で全国平均正答率と同水準という状況である。概ね良好な結果ではあるが、算数・数学 A の数値比較では -3.2 という最も大きな差を示す状況で、中学校で伸び悩む現実が見られる。

□理科については、小 6 時の学力水準は「◎」で全国平均正答率より高かったが、中 3 時の学力水準は「○」で全国平均正答率と同水準という状況であった。数値比較では最も小さい -1.0 という差であった。

□全体では、国語 A のみが小学校時代より上昇しているものの、その他は小学校時代に比べるとマイナスとなり伸び悩む事実が浮き彫りになった。

3 平成 27 年度調査の各教科の設問別正答率と指導改善の方向

小学校国語

[※ 表は各教科の設問別集計結果]

< A 冊子 >

問題番号	1						2		3	4	5		6	7
	一(1)	一(2)	一(3)	二(1)	二(2)	二(3)	一	二			一	二		
評価領域等	言語文化と国語の特質に関する事項								話す聞く	書く	読む		読む・伝達	
国語への関心・意欲・態度														
話す・聞く能力									○					
書く能力										○				
読む能力											○	○	○	○
言語についての知識・理解・技能	○	○	○	○	○	○	○	○						○
全国正答率	97.5	96.0	92.5	58.4	76.5	74.9	53.1	71.7	53.0	86.0	59.5	19.8	67.5	73.9
飯田市正答率	97.9	95.5	90.0	58.8	76.3	71.9	62.9	70.8	57.3	88.0	64.6	13.9	69.4	73.0
全国正答率との比較														

< B 冊子 >

問題番号	1			2				3	
	一	二	三	一ア	一イ	二	三	一	二
評価領域等	書く			読む				読む	書く・読む
国語への関心・意欲・態度			○			○	○		○
話す・聞く能力									
書く能力	○	○	○			○	○		○
読む能力				○	○	○	○	○	○
言語についての知識・理解・技能									
全国正答率	74.6	70.8	34.7	75.5	86.0	78.4	41.6	60.4	66.6
飯田市正答率	76.2	70.3	40.6	75.7	86.3	80.8	42.0	60.2	65.2
全国正答率との比較									

全国正答率を上回る主な問題

- ◇ 文の主題として適切なものを選択する [A2 一]
- ◇ 聞き方の説明として適切なものを選択する [A3]
- ◇ コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択 [A5 一]
- ◇ 新聞の割り付けとして適切なものを選択する [B1 一]
- ◇ 【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く (70 字) [B1 三]
- ◇ 【文章】の要旨をまとめて書く (100 字) [B2 二]

全国正答率を下回る主な問題

- ◆ 漢字を読む (全員がすぐに 承知 した) [A1 一(3)]
- ◆ 漢字を書く (びょういん に行く) [A1 二(3)]
- ◆ 文の型として適切なものを選択する (主語と述語の照応関係) [A2 二]
- ◆ コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く [A5 二]
- ◆ 見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する [B1 二]
- ◆ 声に出して読むときの工夫とその理由を書く [B3 二]

注) [] 内の記号は、A…国語 A、B…国語 B、問題番号 (以下同じ)

指導改善の方向

- 様々な文章を読む中で引用されている部分に着目したり、自らも実生活の中で必要に応じて、文章の表現や情報、図表やグラフ、絵や写真などを適切に引用したりする学習を大切にしましょう。
- 漢字は覚えるだけでなく、使えるようにすることが大切です。日常生活でも積極的に漢字を使って文章を書く学習を大切にしましょう。

領域ごとの課題と指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- 話の目的や意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめることに課題が見られます。
 - 普段から相手の話を聞く際は、共感できる部分や疑問を感じる部分、はっきりとしない部分やさらに知りたい部分などを意識して聞くことが大切です。話し手がどのような目的や意図で意見を述べているかについて意識しながら聞き、自分の考えと比べてながら整理し、まとめる学習を大切にしましょう。

【書くこと】

- 目的や意図に応じ、見出しを付けることに課題が見られます。
 - 見出しを付けるに当たっては、読み手にどのような内容に興味・関心をもってほしいのか、何を伝えたいのかなど、目的や意図を明確にしましょう。その上で語句の反復、誇張、倒置、呼び掛けなど表現の仕方を工夫して見出しを付けてみる学習を大切にしましょう。

【読むこと】

- 文中における「引用」について理解したり判断したりすることに課題が見られます。
 - 様々な種類の文章を読む中で引用されている内容に注意して読んだり、自分自身も目的に応じて適切に引用して文章を書いたりする学習を大切にしましょう。
- 目的に応じ、中心となる語や文を捉えることに課題が見られます。
 - 文章を読む際に、繰り返し使われている語や中心となる語に着目して小見出しを付けるなどして、内容を整理しながら読む学習を大切にしましょう。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 漢字の読み書きの定着状況に課題が見られます。
 - 学年別漢字配当表に示されている漢字は、単に繰り返し練習するだけでなく、様々な場面で実際に使用して漢字の意味を理解したり、同音異義や同訓意義の漢字に注意したりする学習を大切にしましょう。

小学校算数

A冊子

問題番号	1			2				3	4		5		6		7	8
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)		
評価領域	数と計算								量と測定				図形		数量関係	
技能		○		○	○	○	○	○		○						
知識理解	○		○					○	○		○	○	○	○	○	○
全国正答率	71.0	74.3	82.0	98.2	69.5	81.4	84.2	74.8	81.3	58.0	50.6	64.5	75.4	67.6	81.8	88.1
飯田市正答率	68.5	72.9	78.6	98.9	68.3	78.2	85.2	73.8	79.5	55.2	48.6	66.6	74.1	63.3	81.4	90.0
全国正答率との比較																

B冊子

問題番号	1			2			3		4			5	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
評価領域	図形			量・数量			数・図形		数と計算			量・図形	
考え方			○		○	○	○	○		○	○	○	○
技能				○					○				
知識理解	○	○											
全国正答率	95.2	54.6	27.7	64.8	13.1	51.0	32.5	49.1	52.6	62.0	22.3	12.5	47.8
飯田市正答率	95.9	51.3	29.7	65.1	10.8	56.2	28.3	51.0	52.2	58.0	26.5	8.5	44.1
全国正答率との比較													

全国正答率を上回る主な問題

- ◇円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の角の大きさを求める [A5(2)]
- ◇○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る [A8]
- ◇示された割り引きの後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く [B2(3)]
- ◇目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く [B4(3)]

全国正答率を下回る主な問題

- ◆小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、あてはまる数値の組み合わせを書く [A1(3)]
- ◆ $5 \div 9 - 1 \div 4$ を計算する(異分母の分数の計算) [A2(3)]
- ◆作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ [A6(2)]
- ◆周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれどこを目盛りのところを持てばよいかを書く [B3(1)]
- ◆切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ [B4(2)]
- ◆示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く [B5(1)]

指導改善の方向

- 加法の確かめ算が減法になっているという関係を、小数や分数も含めた具体的な数量で繰り返していねいに扱い、理解の定着を図りましょう
- 「図形」や「量と測定」を日常生活と関連付けて考える場面では、見通しを立てたり日常生活から逆に図形を見出したりする活動を多く取り入れ、多面的な見方ができるようにしましょう。
- 考え方を重視する場面では、一般化で発展的な場面を示したり根拠が不足した場面を提示したりして、論理的に考え過不足なく筋道立てて説明できるようにしていきましょう。

領域ごとの課題と指導改善のポイント

【数と計算】

- 計算の結果を確かめるための加法と減法の相互関係の理解に課題があります。
 - 2 学年で学習した整数の加法や減法に戻り、その関係について見直し、それを基に計算の結果を確かめる方法について確認する活動を取り入れましょう。
 - 小数になっても位取り記数法と 10 の相対的な大きさの關係に留意すれば、加法と減法の關係は整数の時と変わらないことを具体的に指導しましょう。

【量と測定】

- 示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することに課題があります。
 - 論理の飛躍を防ぎ、聞き手に的確に伝わるようにするために、前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりする活動を取り入れましょう。
 - 根拠が不足した説明を示して「もう少し詳しく言えませんか」と問い、解決のために必要な根拠をしっかりと充たした説明にたどり着く話し合う活動を取り入れましょう。

【図形】

- 見取り図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解することに課題があります。具体的には、直方体の展開図で 5 つの長方形のどこにもう 1 つの長方形を付ければ展開図が適正に完成させられるかを問う問題に課題があります。
 - 直方体などの立体図形の展開図を観察し、面と面どうしのつながりや位置関係について理解が深められるような操作的活動を取り入れましょう。また、立体図形と見取り図の対応や立体図形と展開図の対応だけでなく、見取り図と展開図の対応についても扱い対応する辺や頂点や面を確かめる操作的活動を取り入れましょう。
- 日常生活の事象を図形と関連付けて考えられることに課題があります。
 - 日常生活の中から図形を見出す活動を設ける場面を設定しましょう。例えば、ブランコの支柱の長さが等しいことから二等辺三角形を見出したり、窓枠が長方形になる理由を窓枠の角が直角になることを用いたりして説明する活動を取り入れましょう。
 - 巻き尺で正三角形を作る際に「どうすればできるか」と見通しを立てたり、「正三角形ができたのは、正三角形のどのような約束や性質を用いたか」と振り返ったりする活動を取り入れましょう。

小学校理科

問題番号	1						2						3						4					
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)ア	(5)イ	(1)	(2)ア	(2)ウ	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
「知識」																								
「活用」	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評価領域	エネルギー		物・エ		エネルギー		生命			生・地			物質			地球								
思考・表現	○	○	○	○	○	○		○	○			○		○	○			○	○			○		○
技能										○	○					○	○				○			○
知識理解							○						○						○				○	
全国正答率	77.6	61.2	62.8	53.2	72.7	66.2	78.0	76.3	69.0	61.6	37.9	44.2	81.9	54.0	51.7	70.7	51.7	28.9	41.0	56.1	55.3	65	58.5	84.2
飯田市正答率	75.7	65.9	64.4	53.6	77.1	63.4	79.0	70.4	65.9	61.8	39.8	44.6	83.4	50.1	52.2	77.5	53.5	23.7	38.1	53.6	48.5	61.2	54.8	80.9
全国正答率との比較																								

注) 理科の調査はA・B問題に分かれていないが、設問ごとに主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題に分類されている。その分類は以下のとおりである。

【主として「知識」に関する問題】→2(1)、2(3)、2(4)、3(1)、3(4)、3(5)、4(2)、4(3)、4(5)

【主として「活用」に関する問題】→その他の設問

全国正答率を上回る主な問題

- ◇振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ [1(2) B]
- ◇電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、あてはまるものを選ぶ [1(5)ア B]
- ◇示された器具(メスシリンダー)の名称を書く [3(4) A]
- ◇顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ [2(4) A]

全国正答率を下回る主な問題

- ◆生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ [2(2) B]
- ◆水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ [3(2) B]
- ◆水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く [3(6) B]
- ◆星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ [4(3) A]
- ◆観察した星座や雲の動きを選ぶ [4(4) B]
- ◆水が水蒸気となる現象について、その名称を書く [4(5) A]
- ◆地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ [4(6) B]

→ 学習指導要領区分では「生命」「地球」の領域が下回っている。

指導改善の方向

- 実験を作業的に行っていくのではなく、導入で明確に課題をつかめるようにし、何を明らかにしたいのか目的をはっきりとさせた上で実験を行うようにしましょう。また、課題を解決するため予想をもとに子どもたちが実験方法を考えたり、実験方法を提示する場合にもその方法で行う理由を考えたりする機会を設けましょう。
- 学校生活の中で栽培活動や観察活動、体験的活動を積極的に取り入れ、理科で学習したことを身の回りの事象や生活場面と結びつけて考えることができるようにしましょう。

領域ごとの課題と指導改善のポイント

【物質】

- 物の溶け方に規則性があり、それをもとに析出量を考えることに課題が見られます。
 - 実験の結果を表やグラフに表して変化や傾向を捉えやすくし、さらにモデル化やイメージ化をして事象を可視化したり、事象を自分なりに説明することを通して思考を整理したりするようにしましょう。
- 水をはかり取るための、適切なメスシリンダーの扱い方に課題が見られます。
 - 実験器具は、操作手順の理解だけでなく、なぜそのように使うのかなど操作の意味も捉えさせることが必要です。また、実験中は机間指導により子どもたちが正しい操作ができているかどうか、丁寧に確認しましょう。

【エネルギー】

- 乾電池2本を直列につなぐ方法に課題が見られます。
 - 特に市販のキットには乾電池2本を平行に並べて実験を行うようになっている物が多いので、乾電池を直列につなぐイメージが身につけにくく、十分に理解できない恐れがあります。個々に回路を作る作業を通して、直列つなぎでは一つの大きな輪ができていることや回路を指でたどりながら乾電池のプラス極マイナス極が順番に並んでいることを確かめる活動を十分に取り入れましょう。

【生命】

- 生物の成長に必要な養分のとり方についての理解に課題が見られます。
 - 子どもたちが世話をしながら動植物に継続的に関わり、日頃から生命の変化に触れる機会を設けましょう。その上で、成長の様子と養分のとり方とを関係づけながら捉え、魚や人、植物を比較しながら理解するようにしましょう。
- 顕微鏡の正しい使い方に課題が見られます。
 - 子どもたちが顕微鏡を操作しながら観察する時間を積極的に設け、一人ひとりが顕微鏡に触れる機会を多く設けましょう。

【地球】

- 月や星座の動き方の観察の仕方に課題が見られます。
 - 普段から方位を意識させる掲示や言葉がけをしましょう。月や星の観察は夜間に家庭で行うことが多いと思います。学校での事前指導で観察方法を正しく理解できるようにしましょう。家庭では保護者に協力を仰ぎながら方位を正確に捉え、正しい方法で観察できるようにしましょう。観察後は資料を提示したり友の結果と見比べたりして個々に観察してきたことに間違いがないことを確認し、正しい知識が身につくようにしましょう。

中学校国語

<A冊子>

問題番号	1		2		3			4	5	6	7		8	
	一	二	一	二	一	二	三	一	一	二	一	二	一	二
評価領域等	話す・聞く		書く		伝統			読む	書く	読む	書く		話す・聞く	
国語への関心・意欲・態度														
話す・聞く能力	○	○									○	○		
書く能力			○	○				○					○	○
読む能力						○	○		○	○				
言語についての知識・理解・技能					○									
全国正答率	93.0	65.0	79.8	83.6	58.3	88.7	89.8	67.6	93.6	71.3	87.1	70.6	66.4	84.6
飯田市正答率	94.8	66.6	82.3	87.0	57.7	89.6	91.9	70.9	94.4	73.1	88.8	74.8	73.8	85.1
全国正答率との比較														

問題番号	9																
	一	二	三	一	二	三	三ア	三イ	三ウ	三エ	三オ	三カ	四①	四②	五	六	七
評価領域等	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項																
国語への関心・意欲・態度																	
話す・聞く能力																	
書く能力																	
読む能力																	
言語についての知識・理解・技能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全国正答率	38.5	72.1	70.9	78.2	94.1	97.2	97.6	55.5	84.1	70.8	49.0	86.9	62.3	33.7	85.9	58.2	75.3
飯田市正答率	31.1	82.9	81.1	82.0	94.1	97.8	97.7	62.7	85.6	74.4	59.2	85.4	61.4	32.0	90.5	59.2	80.1
全国正答率との比較																	

<B冊子>

問題番号	1			2			3		
	一	二	三	一	二	三	一	二	三
評価領域等	話す・聞く			読む			書く・読む		
国語への関心・意欲・態度			○			○			○
話す・聞く能力	○	○	○						
書く能力			○			○			○
読む能力				○	○	○	○	○	○
言語についての知識・理解・技能									
全国正答率	73.2	87.3	56.2	82.6	67.8	23.0	88.6	82.6	31.1
飯田市正答率	73.6	88.8	58.7	83.0	64.7	23.2	90.5	85.0	34.8
全国正答率との比較									

全国正答率を上回る主な問題

- ◇要望を適切に捉え、回答の冒頭に一文を加える [A7 二]
- ◇漢字を書く (シュクシヤク) [A9 一 2]
- ◇漢字を書く (アマツたお金) [A9 一 3]
- ◇適切な語句を選択する
(討論の口火を切った) [A9 三 4]
(たなびく雲の間) [A9 三 4]
- ◇漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典文から選択 [A9 七 1]

全国正答率を下回る主な問題

- ◆「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する
- ◆雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する

[A9 四①②]

[B2 二]

指導改善の方向

【平成 26 年度提案】

- ☐ 学習のめあての明確化と振り返りの累積
- ☐ 話し合い活動の重視
- ☐ 国語学習の苦手な生徒へのこまめな声がけなど国語学習への基本的な意欲作り
- ☐ 家庭学習の具体的な指導

指導の基本的な方向は、上記の昨年度提案内容の継続的な実践で良いと思いますが、以下の 4 点をさらに強調した指導に心掛けましょう。

- ☐ 生徒の主体的な学習姿勢の育成をめざした授業形態への変換を図りましょう。
- ☐ 既習の言語事項の定着のための工夫をしましょう。
- ☐ 学習の中に多様な資料収集活動の経験ができる言語活動を取り入れましょう。
- ☐ 授業や家庭学習において、読解力・語彙力向上のための工夫をしましょう。

領域ごとの課題と指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- 対話活動に自分の意図を持って関わっていくことに習熟していない傾向が見られます。
 - 目的意識や相手意識をもとにした取材・インタビュー活動を学習に取り入れましょう。その際、実際の取材やインタビューを想定した計画を立て、また目的とすりあわせた振り返り学習を大切にしましょう。

【書くこと】

- 複合的なあるいは非言語による資料を読解して、書くことの情報を得ることに習熟していない傾向が見られます。
 - 聞く話す活動や読む活動とリンクした書く学習を仕組んでみましょう。書くために多様な資料を読み、人の話を聞く活動を取り入れましょう。

【読むこと】

- 使用語彙の難易度が上がり文章が長くなると文意が読み取れなくなる傾向が見られます。
 - 教科書教材や新聞等を活用した語彙指導、読書指導、辞書の活用指導等を取り入れましょう。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 日頃なじみの薄い語句の読み方使い方に習熟していない傾向が見られます。
- 口語文法の知識が定着していない傾向が見られます。
 - 教材に使用されている言語事項（熟語、慣用句、文型、既習文法、表現技法）の取り立て指導を行いましょう。

中学校数学

<A冊子>

問題番号	1				2				3				4		5				6		7			8
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	
評定 領域	数と式												図形											
技能		○				○	○				○	○	○			○					○			
知識・理解	○		○	○				○	○				○		○	○		○	○	○		○	○	○
全国正答率	93.6	83.7	75.7	75.4	85.3	22.2	64.2	57.0	79.4	73.8	44.9	56.8	59.1	54.5	47.4	83.4	83.8	56.4	80.3	69.7	76.1	76.1	48.1	25.8
飯田市正答率	95.0	85.4	73.5	76.6	82.3	19.2	64.0	54.2	78.7	76.7	44.9	54.9	63.0	50.7	52.0	88.6	84.5	56.7	76.1	66.8	75.2	73.3	47.0	26.2
全国正答率との比較																								

問題番号	9	10			11	12		13	14		15	
		(1)	(2)	(3)		(1)	(2)		(1)	(2)	(1)	(2)
評定 領域	関数							資料の活用				
技能			○	○	○		○		○	○	○	○
知識・理解	○	○				○		○				○
全国正答率	81.5	61.7	64.9	49.3	64.7	49.9	83.8	37.9	46.0	75.9	74.8	55.4
飯田市正答率	85.2	60.4	67.6	45.9	68.0	47.1	84.7	34.9	43.7	76.0	76.9	55.8
全国正答率との比較												

全国正答率を上回る主な問題

- ◇ 垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ [A4(1)]
- ◇ 直方体において与えられた辺に垂直な面を書く [A5(1)]
- ◇ y が x の関数でない事象を選ぶ [A9]
- ◇ 一次関数の表から、 x と y の関係を表した式を選ぶ [A11]
- ◇ 記名のある落し物を1個1点、ない落し物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ [B5(3)]

<B冊子>

問題番号	1			2			3		4		5			6	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
評定 領域	関数			数と式			図形		図形		資料の活用			数と式	
考え方		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
技能	○										○				
知識・理解															
全国正答率	29.3	35.1	11.7	78.8	43.1	63.8	42.6	21.2	42.5	49.6	39.1	23.3	67.3	46.5	30.8
飯田市正答率	31.0	35.4	9.5	79.8	39.0	63.1	43.8	19.2	41.7	48.4	40.2	24.8	70.4	42.4	31.2
全国正答率との比較															

全国正答率を下回る主な問題

- ◆ $\triangle ABC$ を矢印の方向に4cm平行移動した図をかく [A4(2)]
- ◆ 同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ [A6(1)]
- ◆ 証明で用いられている三角形の合同条件を書く [A7(2)]
- ◆ 連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する [B2(2)]
- ◆ 中心角の大きさ x と半径の長さ y の間にある関係について、正しい記述を選ぶ [B6(1)]

指導改善の方向

- 基礎的・基本的な知識・技能に関する問題を解決するにあたって、解決の手順や方法を考え、書いたり説明し合ったりするなど表現する活動を取り入れましょう。
- 日常の事象を、理想化や単純化して考察したり、問題解決の方法や判断の理由や事実が成り立つ理由を説明したりする際に、根拠がより適切になるよう修正する活動を取り入れましょう。
- 1つ1つの事柄を関連づけて捉え、統合してみていく活動を取り入れましょう。

領域ごとの課題と指導改善のポイント

【数と計算】

- 数量の関係を文字式に表すことに課題がみられます。
 - 関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるように指導しましょう。
- 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することに課題がみられます。
 - 文字式や言葉を用いて、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明できるように指導しましょう。特に、解決するための見通しをもち、根拠を明らかにする活動を充実させましょう。

【図形】

- 証明の必要性和意味を理解することに課題がみられます。
 - 帰納的に調べる活動を取り入れ、帰納的な方法による説明と比較しながら、演繹的な推論による説明の役割を確認する活動を取り入れましょう。
- 問題解決の方法を図形の性質を用いて数学的に説明することに課題がみられます。
 - 問題解決の方法に焦点を当て、図形の性質などの「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させましょう。また、問題解決後にその過程を振り返りながら、「何を用了のか」、「どのように用了のか」を明らかにする活動を取り入れましょう。

【関数】

- x の変域に対応する y の変域を求めることに課題がみられます。
 - 与えられた x の変域から対応する y の変域を求めることができるように、グラフを用いて、変域を視覚的に捉える活動を取り入れましょう。
- 結果を振り返り、事象を数学的に解釈することに課題がみられます。
 - 具体的な事象における数量の関係を表す式から、関数関係を読み取る活動を取り入れ、数量の関係を的確に捉え、その関係を数学的に表現する活動を取り入れましょう。

【資料の活用】

- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を説明することに課題がみられます。
 - ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え説明する場面を設定し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れましょう。

中学校理科

問題番号	1						2				3		4		5		6		7			8			
	(1)化	(1)濃	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)		
「知識」	○	○						○	○							○				○			○		
「活用」			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○		
評定領域	化学						地学				物地	地学	物理						生物						
思考・表現			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	
技能		○							○																
知識・理解	○							○								○				○			○		
全国正答率	79.6	45.0	32.6	53.0	73.6	51.7	57.7	77.9	48.6	14.5	62.2	36.5	39.0	43.7	50.3	59.6	56.8	40.1	29.9	72.2	76.4	57.3	63.9	55.7	47.4
飯田市正答率	73.4	48.5	33.7	60.9	75.7	57.1	55.2	76.6	50.4	8.1	58.7	32.3	37.9	42.6	51.7	64.4	57.1	41.4	27.7	75.6	77.7	59.1	64.2	56.6	46.2
全国正答率との比較																									

注) 理科の調査はA・B問題に分かれていないが、設問ごとに主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題に分類されている。その分類は以下のとおりである。

【主として「知識」に関する問題】→1(1)、2(1)、2(2)、5(1)、7(1)、8(1)

【主として「活用」に関する問題】→その他の設問

全国正答率を上回る主な問題

- ◇水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する [1(3) B]
- ◇ベーキングパウダーの原材料で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ [1(5) B]
- ◇抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める [5(1) A]
- ◇消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ [7(1) A]

全国正答率を下回る主な問題

- ◆塩化ナトリウムの化学式を選ぶ [1(1) A]
- ◆湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する [2(3) B]
- ◆上空を飛行中の飛行機内で菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状態を推測する [2(4) B]
- ◆13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い温度を選ぶ [3(1) B]
- ◆上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ [3(2) B]
- ◆音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ [6(2) B]

→ 学習指導要領区分では第二分野「地学的領域」が下回っている。

指導改善の方向

- 実験や観察の結果から考察する場面では、課題に正対した考察をすることに留意しながら、事象に関わる要因に着目し、多面的、総合的にとらえて思考しましょう。
- グループやペアでの活動では、自分の考えを発表したり、個々の考えについて討議したりして共有する中で、自分の考えを深めていきましょう。

領域ごとの課題と指導改善のポイント

【物質】

- 物質の名称や化学式の定着に課題が見られます。
 - 化合物の組成について原子のモデルを用いて表し、それを化学式で書き表す学習を通して正しく身につけていきましょう。
 - 塩化ナトリウムの化学式は、2学年の原子・分子の単元では簡単に扱う程度です。
3学年のイオンの単元で、陽イオンになる原子を先に、陰イオンになる原子を後に書くことを確認し、定着を図りましょう。
- 実験や観察の結果を分析したり、グラフを正確に解釈したりことに課題が見られます。
 - グループでの追究では、グループ内で各自の考えを説明し合うことで、一人では気づかなかった考えに気づき、それを共有し深めていきましょう。

【エネルギー】

- 音の高低、大小についての実験に関わる内容では実験結果を予想して計画することに課題が見られます。
 - 日頃から、仮説を設定し、検証する実験を計画することに取り組んでいきましょう。
たとえ仮説が成立しなくても検証した実験には意味があるということに気づくことが大切です。
 - いろいろな種類の波形を観察する活動を通して振幅や振動数の言葉の意味を正しく身につけましょう。

【生命】

- 生物分野における実験や観察では、生物の多様性から様々な要素が関わっています。結果から考察する場面で、課題に正対した考察をすることに課題があります。
 - 考察するときに、関わっている要因を明確にし、必要な要因を選ぶようにしましょう。
 - その課題で問われていることをくり返し確認し、自分の考察をふり返ったり、他者の考察をグループで検討し改善したりすることをしましょう。

【地球】

- 地学分野では、自然の事物や現象とモデルを対応させ考察することに課題があります。
 - 雲のでき方については、1年生で既習している水と水蒸気の状態変化や大気圧など、関連する他の領域で学習した内容について整理しておきましょう。
 - モデルを使った実験では、実験の装置や操作が自然の事物・現象の何と対応しているかを明らかにしましょう。
 - 山岳学習で菓子袋が膨らんだり、窓に結露が見られたりするなどの、行事や日常の生活の中に見られる事象と関連させて、何がどのように変化するのかを考えてみましょう。

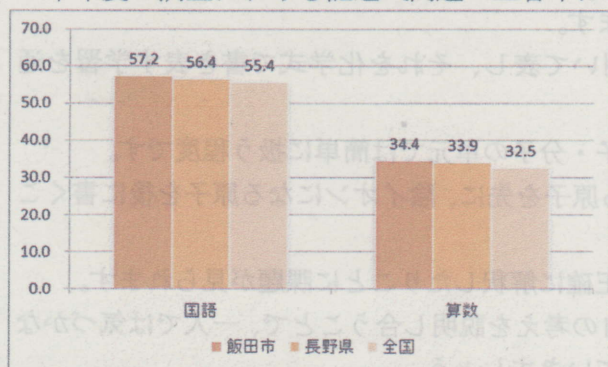
Ⅲ 質問紙調査の回答からみえる飯田市の分析結果について

1 自分の考えや理由を言葉で記述して説明することに関して

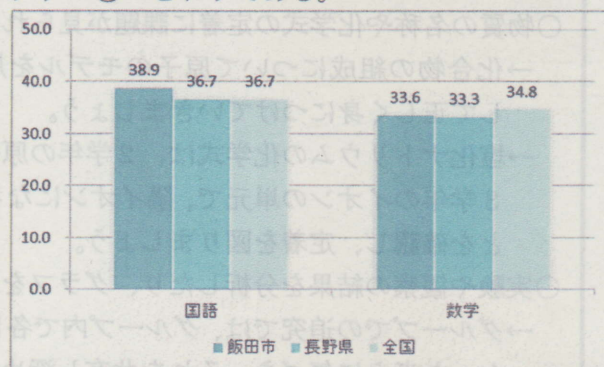
これから（未来社会）を担う主人公として求められる力は、「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということである。つまり、子どもたちには知識・技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していく思考や言語活動が必要となる。また、こうした学びを推進するエンジンとなる子どもたちの学びに向かう力も求められる。そこで、活用する力を問う記述式問題の正答率と無解答率の状況と無解答率が高かった算数・数学に関する質問紙から、その点を分析する。

（1）記述式問題の正答率

本年度の調査における記述式問題の正答率は、グラフ①のとおりである。



[グラフ①-1：小学校調査における記述式問題の正答率]

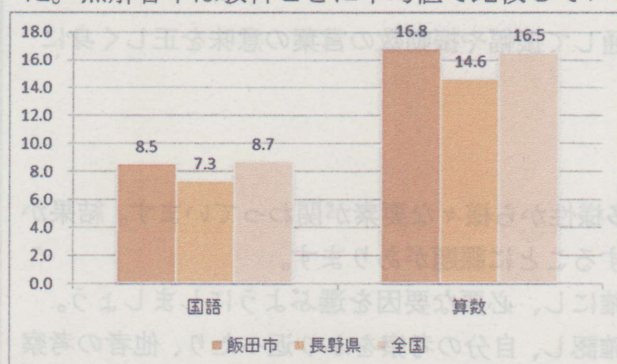


[グラフ①-2：中学校調査における記述式問題の正答率]

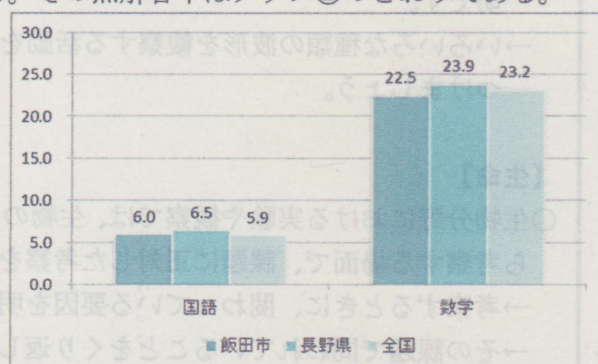
小学校は、国語が 57.2%、算数が 34.4%であり、全国平均と比べ国語が 1.8 ポイント、算数が 1.9 ポイント上回っている。中学校は、国語が 38.9%、数学が 33.6%であり、全国平均と比べ国語が 2.2 ポイント上回り、数学が 1.2 ポイント下回っている。

（2）記述式問題の無解答率

記述式問題は小学校が国語 B 4 問、算数 B 5 問であり、中学校が国語 B 3 問、数学 B 7 問であった。無解答率は教科ごとに平均値で比較している。その無解答率はグラフ②のとおりである。



[グラフ②-1：小学校調査における記述式問題の無解答率]



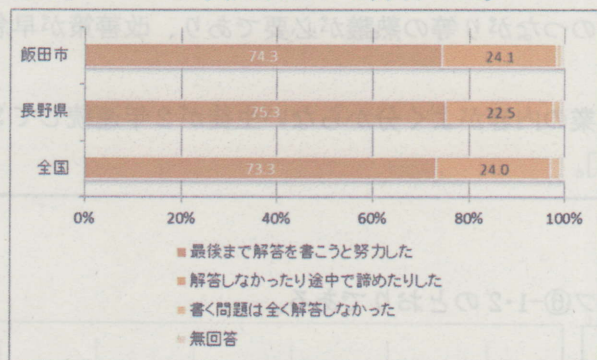
[グラフ②-2：中学校調査における記述式問題の無解答率]

小学校は、国語が 8.5%、算数が 16.8%であり、全国平均と比べ国語が 0.2 ポイント低く、算数が 0.3 ポイント高い。中学校は、国語が 6.0%、数学が 22.5%であり、全国平均と比べ国語が 0.1 ポイント高く、数学が 0.7 ポイント低い。無解答率は、小中学校とも全国や長野県と大きな差はないが、小学校算数が全国や長野県よりも高い数値となっている。

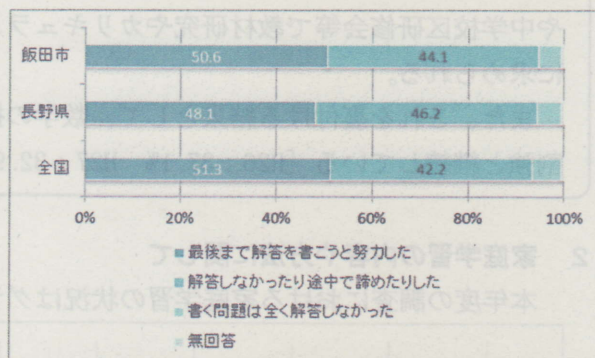
記述式問題の正答率と無解答率から、飯田市の児童生徒は活用する力を問う問題に対して、前向きに最後まで解答を書こうと努力する姿が伺える。学びを推進するエンジンである「学びに向かう力」を持っている。唯一、小学校算数の無解答率が全国や長野県よりも少し高く、課題を残した。そこで、小中学校共に算数・数学の無解答率を減らす方策が求められる。

(3) 算数・数学に対する関心・意欲・態度

比較的無解答率の高かった算数・数学について、子どもたちの算数・数学の学習に向かう力を「最後まで解答しようとしたか」「算数・数学は好きか」「解き方や考え方が分かるようにノートに書く」の3つの質問項目から分析した。

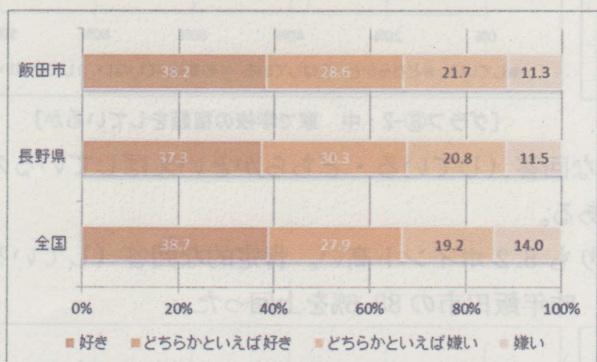


【グラフ③-1：小 算数の問題を最後まで書こうと努力】

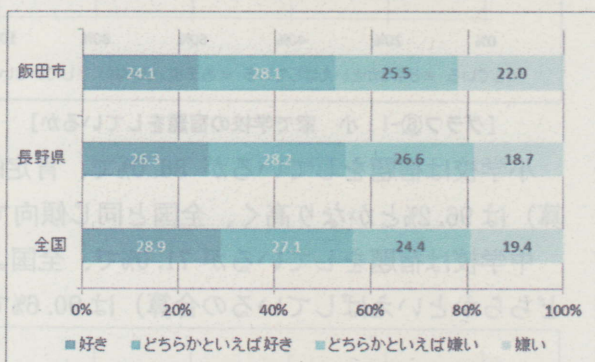


【グラフ③-2：中 数学の問題を最後まで書こうと努力】

算数・数学の問題を最後まで解答しようとしたかについては、グラフ③-1.2のとおりである。小学校は肯定的な回答が74.3%で、否定的な回答は25.1%であった。中学校は肯定的な回答が50.6%で、否定的な回答は48.8%であった。小中学校ともに全国とほぼ同様であったが、中学校は肯定的な回答が0.7ポイント下回った。

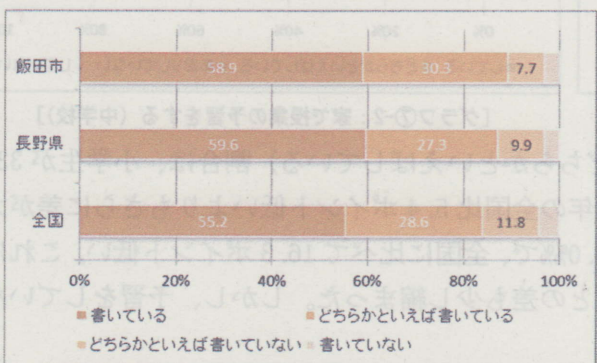


【グラフ④-1：小 算数の勉強は好きですか】

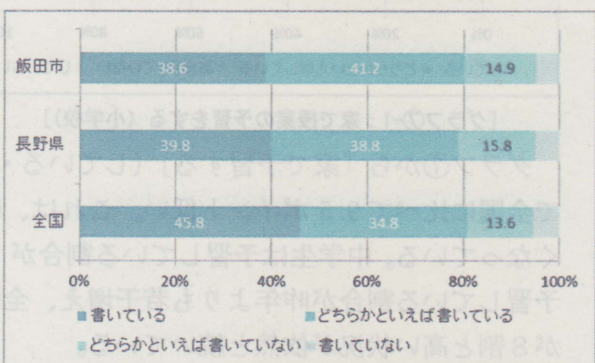


【グラフ④-2：中 数学の勉強は好きですか】

グラフ④-1.2は算数・数学が好きかを問うグラフである。小学生は肯定的な回答（好き・どちらかといえば好き）が66.8%で全国よりも0.2ポイント高い。中学生は肯定的な回答が52.2%で全国よりも3.8ポイント低い。中学生は否定的な回答（どちらかといえば嫌い・嫌い）が47.5%と約半数である。



【グラフ⑤-1：小 解き方等をノートに書いているか】



【グラフ⑤-2：中 解き方等をノートに書いているか】

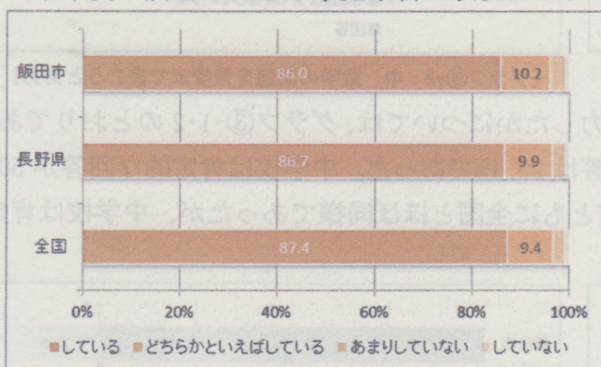
グラフ⑤-1.2は問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているかを訊いたグラフである。小学生は肯定的な回答が89.2%であり、全国の83.8%を5.4ポイント上回っている。中学生は肯定的な回答が79.8%であり、全国の80.6%とほぼ同程度である。

算数・数学が好きかを問う質問結果から、小学生は肯定的な回答が全国を上回っているが、中学生になると肯定的な回答が全国を下回る状況であった。また、中学生の否定的な回答（嫌い・どちらかといえば嫌い）は約半数となり、中学生になってから肯定的な回答が約 15 ポイント減少する状況が浮き彫りとなった。ここから、中学校数学の指導内容や指導方法等について、教科会や中学校区研修会等で教材研究やカリキュラムのつながり等の熟議が必要であり、改善策が早急に求められる。

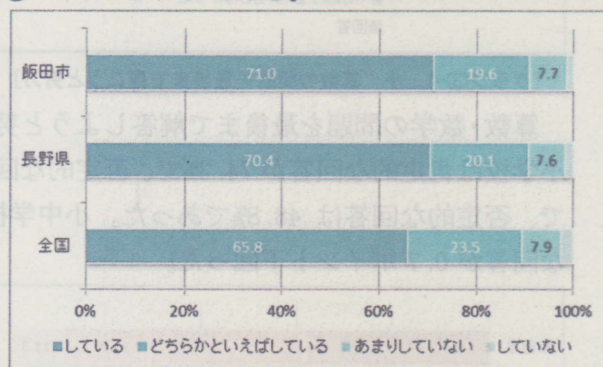
また、これを裏付ける結果として、数学の授業の内容がよく分からない生徒が 2 年連続して 3 割強と継続している [H26 : 37.1% H27 : 32.9%]。

2 家庭学習の内容や方法に関して

本年度の調査における家庭学習の状況はグラフ⑥-1・2 のとおりである。



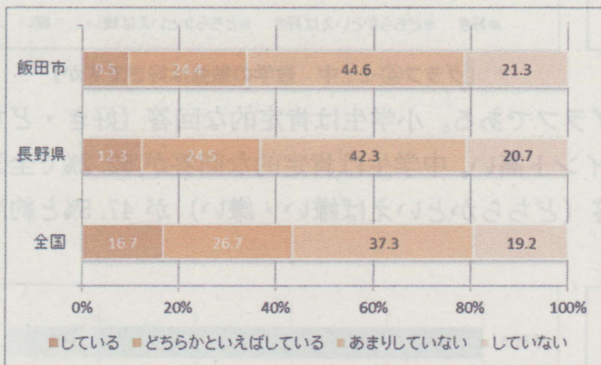
〔グラフ⑥-1：小 家で学校の宿題をしているか〕



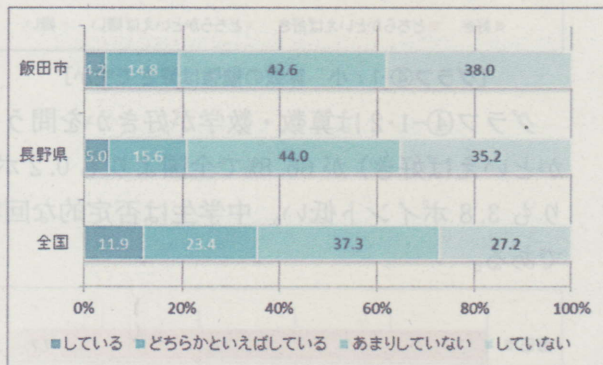
〔グラフ⑥-2：中 家で学校の宿題をしているか〕

小学校は宿題をしているが 86.0%で、肯定的な回答（している・どちらかといえばしているの合算）は 96.2%とかなり高く、全国と同じ傾向である。

中学校は宿題をしているが 71.0%で、全国よりも 5.2 ポイント高い。肯定的な回答（している・どちらかといえばしているの合算）は 90.6%で、昨年飯田市の 88.6%を上回った。



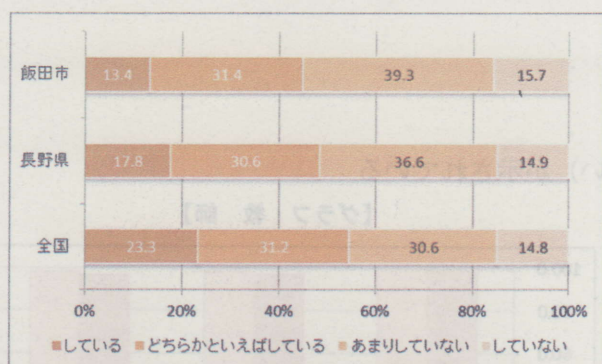
〔グラフ⑦-1：家で授業の予習をする（小学校）〕



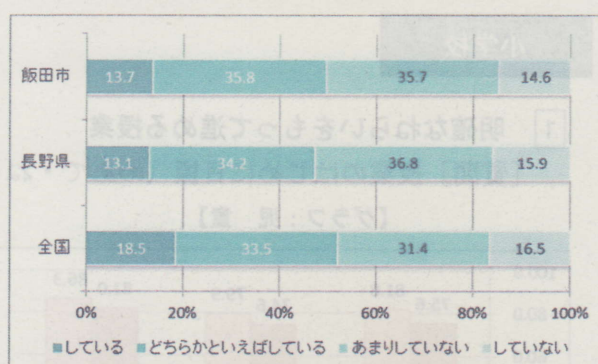
〔グラフ⑦-2：家で授業の予習をする（中学校）〕

グラフ⑦から「家で予習する」（している・どちらかといえばしている）割合は、小学生が 33.9%で全国に比べて 9.5 ポイント低い。これは、昨年の全国比 5.4 ポイント低いよりもさらに差が大きくなっている。中学生は予習している割合が 19.0%で、全国に比べて 16.3 ポイント低い。これは、予習している割合が昨年よりも若干増え、全国との差も少し縮まった。しかし、予習をしていないが 8 割と高い状況が依然と続いている。

次ページのグラフ⑧から「家で復習する」（している・どちらかといえばしている）割合は、小学生が 44.8%で全国に比べて 9.7 ポイント低い。これは、昨年の全国比 2.6 ポイント低いよりも 4 倍弱、差が開いている。中学生は復習している割合が 49.5%で、全国に比べて 2.5 ポイント低い。これは、復習している割合が昨年よりも約 4 ポイント高くなり、全国との差も昨年の 4.8 ポイントから 2.5 ポイントと縮まっている。

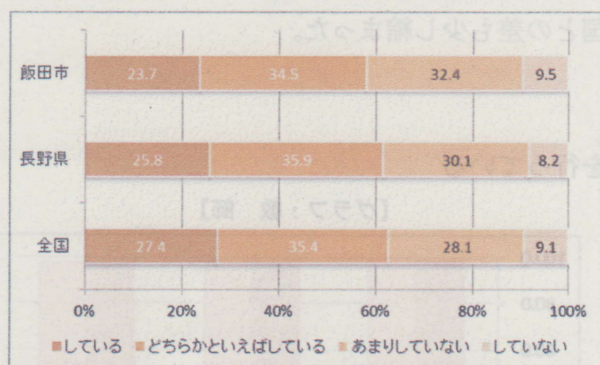


【グラフ⑧-1：家で授業の復習をする（小学校）】

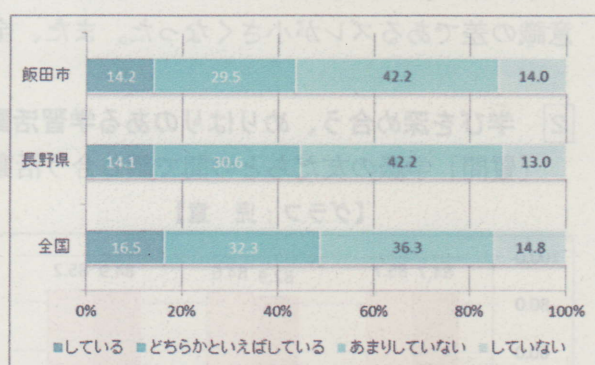


【グラフ⑧-2：家で授業の復習をする（中学校）】

最後にグラフ⑨は、家で計画を立てて勉強しているかの状況である。小学校は「自分で計画を立てて勉強している（している・どちらかといえばしている）」の割合が 58.2%であり、全国のしている割合 62.8%よりも 4.6 ポイント低い。中学校はしている割合が 43.7%であり、全国のしている割合 48.8%よりも 5.1 ポイント低く、小中学校ともに家庭で自主的計画的に勉強に取り組もうとする意識に課題が見られる。



【グラフ⑨-1：家で計画を立てて勉強する（小学校）】



【グラフ⑨-2：家で計画を立てて勉強する（中学校）】

これら 4 つの質問項目から、飯田市の児童生徒は家庭で宿題はするが、自分で計画的に勉強したり、学校の授業に関連した内容の予習や復習をしたりする割合が低く、特に本年度は小学生の授業に関連した予習や復習の状況に課題が見られた。

中学生は昨年と比較すると、予習や復習を取り入れた宿題へと改善しつつある傾向が伺えた。

小学生は 96.2%、中学生は 90.6%が机に向かって宿題をしている。

しかし、小中学生ともに昨年と同様、予習や復習をしている割合は全国に比べると低い状況が続いている。詳細には、小学生が全国に比べて予習や復習をしている割合が悪化し、中学生は全国に比べて予習や復習をしている割合が改善しつつある。また、家で計画を立てて勉強する割合も全国に比べて、小中学校ともに約 5 ポイント低い。

ここから、飯田市の児童生徒は家庭で宿題はするが、自分で計画的に勉強したり、学校の授業に関連した内容の予習や復習をしたりする割合が低く、特に本年度は小学生の授業に関連した予習や復習の状況に課題が見られた。

3 小中連携・一貫教育の効果に関して

(1)「飯田市学力向上『結い』プラン」の検証

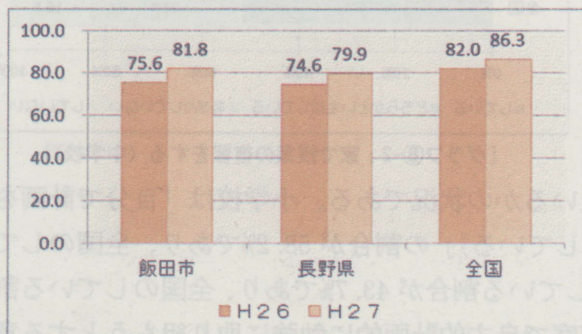
平成 26 年 4 月から、すべての教室で 9 年間を通した一貫性のある授業づくりの 3 観点を明確にした「学力向上『結い』プラン」に取り組んでいる。以下の小中学校別のグラフは、授業の導入・展開・終末段階における児童生徒と教師の意識の違いについて示したものである。また、グラフは児童生徒と教師ともに、昨年と比較している。

小学校

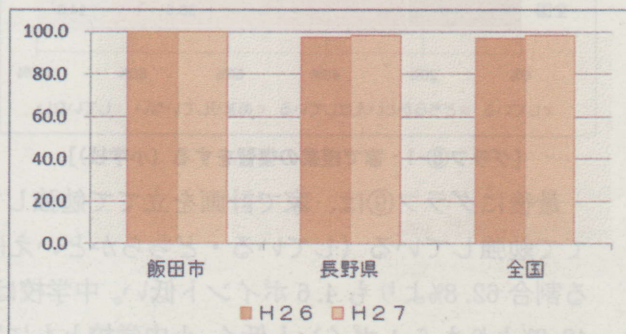
1 明確なねらいをもって進める授業

〔質問〕授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されている

【グラフ：児童】



【グラフ：教師】

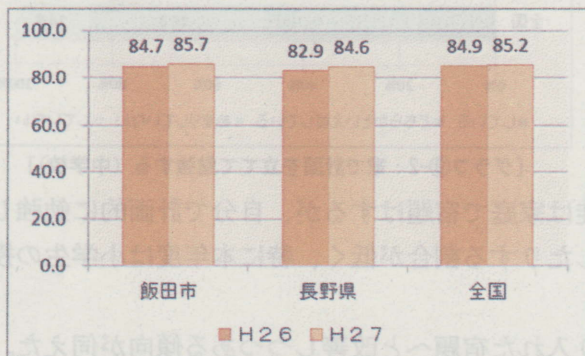


飯田市の児童の意識は、昨年と比較すると6.2ポイント高くなり（75.6%→81.8%）、児童と教師の意識の差であるブレが小さくなった。また、全国との差も少し縮まった。

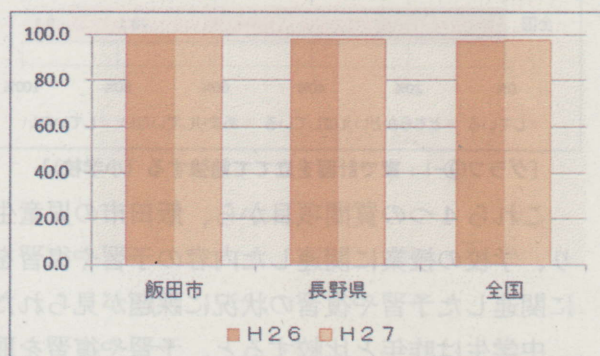
2 学びを深め合う、めりはりのある学習活動

〔質問〕学級の友だちとの間で話し合う活動を行っている

【グラフ：児童】



【グラフ：教師】

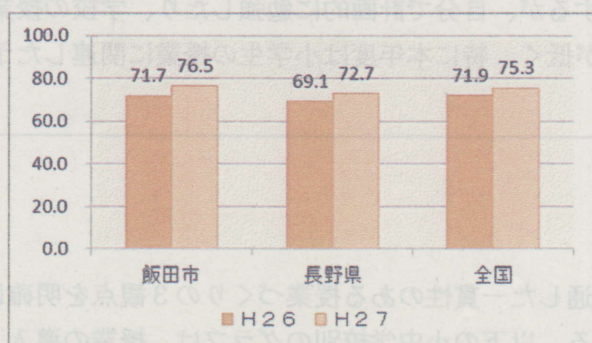


メリハリのある学習活動の児童の意識は全国と同様、若干増えている。話し合う活動の充実については、全国と大きな差異はみられない。

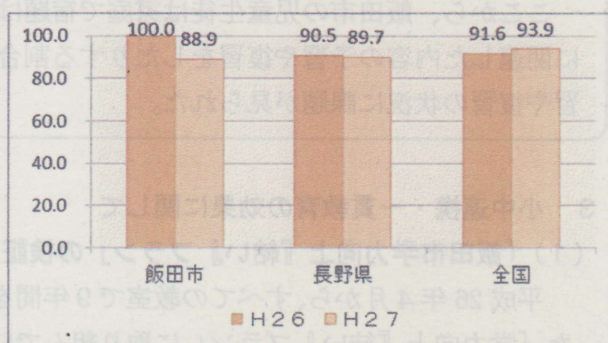
3 ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価（終末の振り返り）

〔質問〕学習内容を振り返る活動を行っている

【グラフ：児童】



【グラフ：教師】



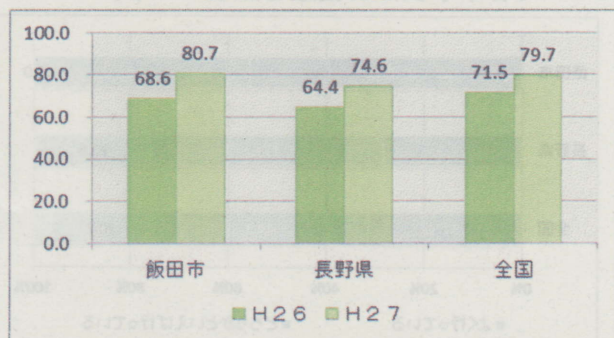
飯田市の児童の意識が昨年より4.8ポイント高くなり、全国と同じような傾向である。教師の意識が11.1ポイント減少し、終末の振り返りに課題がある。

中学校

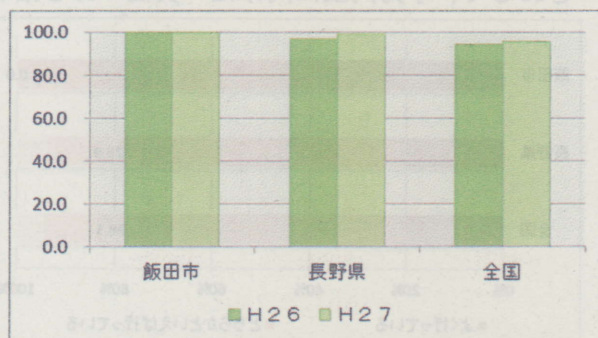
1 明確なねらいをもって進める授業

〔質問〕授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されている

【グラフ：生徒】



【グラフ：教師】

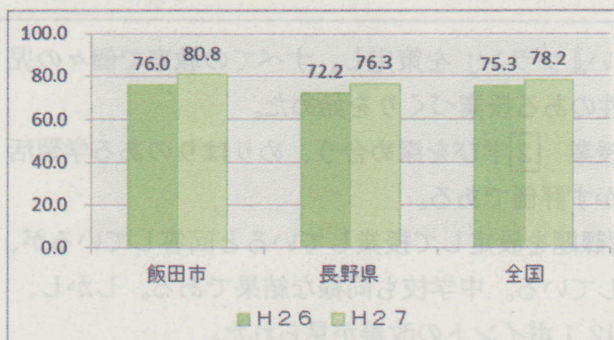


飯田市の生徒の意識は68.6%（H26）から80.7%（H27）へと12.1ポイント高くなり、大きく改善した。H27の数値は全国を上回っている。学習課題の設定等について改善が見られる。

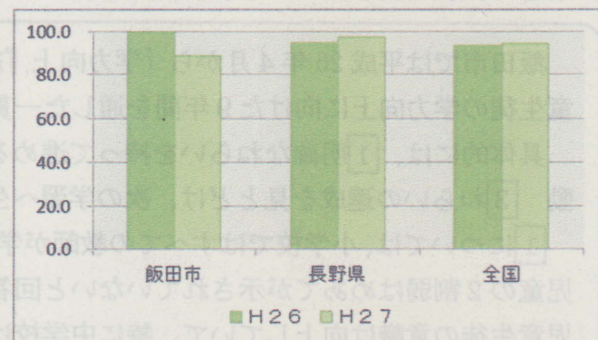
2 学びを深め合う、めりはりのある学習活動

〔質問〕学級の友だちとの間で話し合う活動を行っている

【グラフ：生徒】



【グラフ：教師】

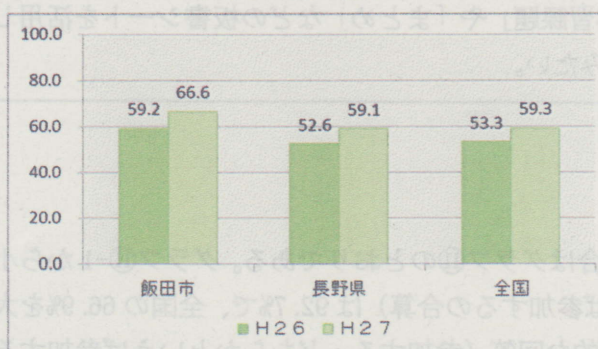


H27生徒の意識は80.8%で昨年に比べて4.8ポイント高くなった。この数値も全国を上回り、めりはりのある授業が展開されている状況が伺える。

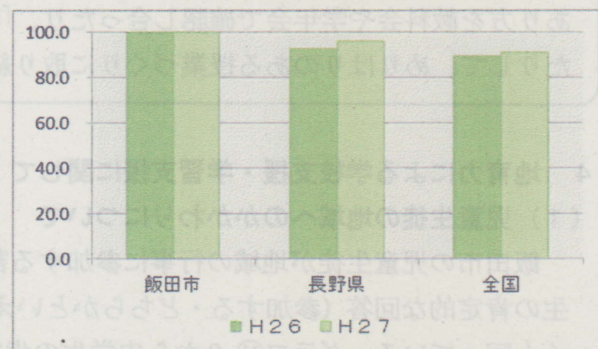
3 ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価（終末の振り返り）

〔質問〕学習内容を振り返る活動を行っている

【グラフ：生徒】



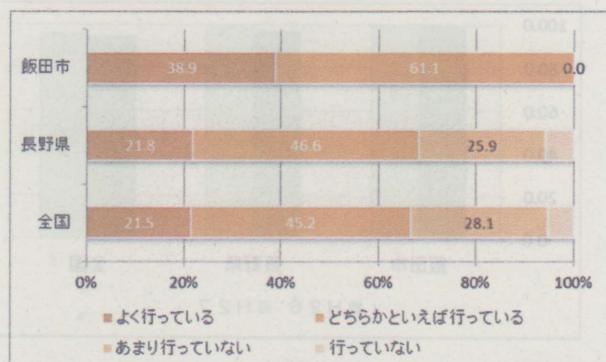
【グラフ：教師】



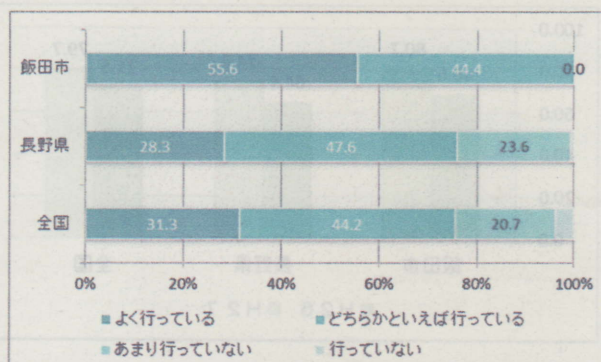
終末の振り返る活動については、H27生徒の意識は66.6%で昨年から7.4ポイント高くなった。生徒と教師の意識のズレはまだ大きいですが、徐々に改善されつつある。全国も同様な結果である。

(2) 小中学校の連携について

平成 25 年度からすべての中学校区で展開している「小中連携・一貫教育」も 3 年目に入った。この 2 年間の特長は、与えられたものを受容するのではなく、各中学校区で「できるところから始める」「それを積み重ねていく」ところにある。その中核は「授業改善」であり、校種を超えた協働をとおして、学力向上に向けた一貫性のある指導について各中学校区で協議を深めている。



〔グラフ⑩-1：近隣の中学校と連携している（小学校）〕



〔グラフ⑩-2：近隣の小学校と連携している（中学校）〕

グラフ⑩は「教科の指導内容や指導方法について、近隣の小中学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っているか」の状況である。

グラフ⑩-1 と⑩-2 から小中学校ともに 100%行っていると回答している。両回答とも全国や長野県の肯定的な回答（行っている）を大きく上回っている。各中学校区の小中学校間で、教師による研修や交流が図られている状況がある。

飯田市では平成 26 年 4 月から「学力向上『結い』プラン」を策定し、すべての教室で個々の児童生徒の学力向上に向けた 9 年間を通した一貫性のある授業づくりを始めた。

具体的には、**①**明確なねらいを持って進める授業 **②**学びを深め合う、めりはりのある学習活動 **③**ねらいの達成を見とどけ、次の学習へ生かす評価である。

①については、小学校ではすべての教師が学習課題を設定して授業していると回答しているが、児童の 2 割弱はめあてが示されていないと回答している。中学校も同様な結果である。しかし、児童生徒の意識は向上していて、特に中学校は 12.1 ポイントの改善が見られた。

②については、児童生徒が主体的に学習に取り組むために、一斉授業だけでなくペアやグループで意見交換したりホワイトボードや付箋を使って話し合ったりする授業、ポスターなどを作成して発表する授業を取り入れるなど、さらに工夫した学習活動を期待する。

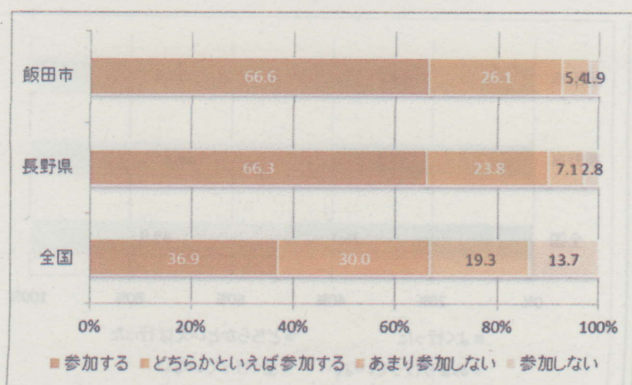
③については、**①**と同様の傾向にあり、児童生徒と教師の意識のズレが際立っている。しかし、児童生徒の意識は昨年に比べ、小中学校ともに向上していて授業改善の兆しが見られる。

さらに、終末段階の知識・技能の確実な定着と、伸びる力を一層伸ばすことを意識した終末のあり方を教科会や学年会で確認し合ったり、「学習課題」や「まとめ」などの板書シートを活用したりして、めりはりのある授業づくりに取り組みたい。

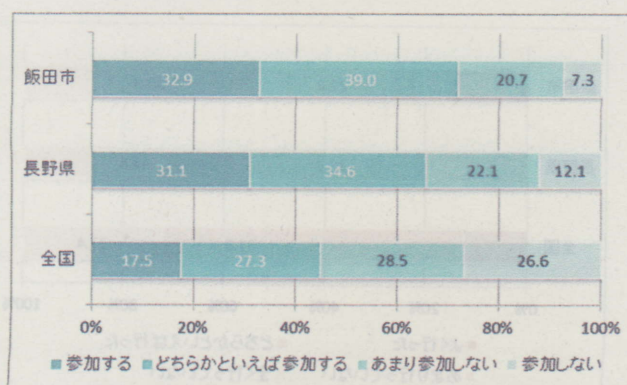
4 地育力による学校支援・学習支援に関して

(1) 児童生徒の地域へのかかわりについて

飯田市の児童生徒が地域の行事に参加する割合はグラフ⑪のとおりである。グラフ⑪-1 から小学生の肯定的な回答（参加する・どちらかといえば参加するの合算）は 92.7%で、全国の 66.9%を大きく上回っている。グラフ⑪-2 から中学生の肯定的な回答（参加する・どちらかといえば参加するの合算）は 71.9%で、全国の 44.8%を小学生同様大きく上回っている。特に中学生の肯定的な回答が、昨年よりも 5.4 ポイント高くなっている。

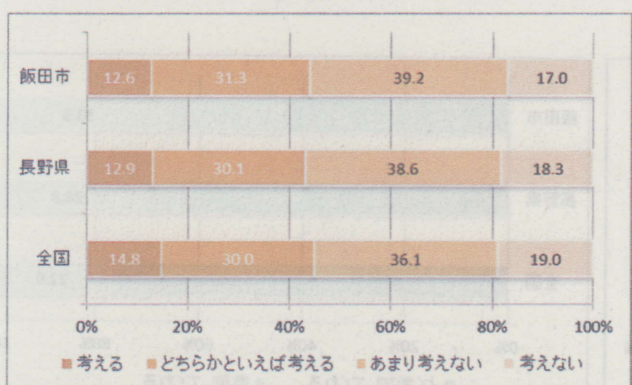


〔グラフ⑪-1：地域の行事に参加する（小学校）〕

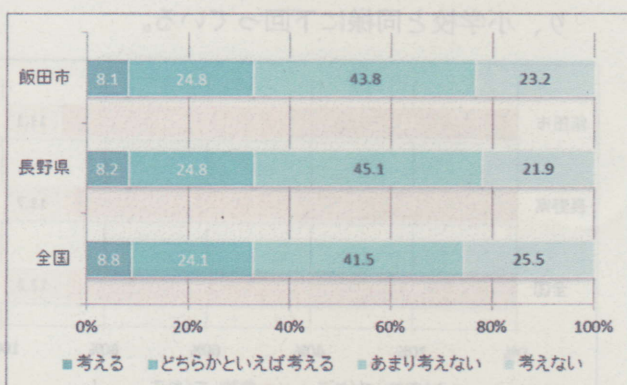


〔グラフ⑪-2：地域の行事に参加する（中学校）〕

グラフ⑫は、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるかを訊いている。グラフ⑪からは、行事に前向きに参加する飯田市の小中学生の姿が伺えたが、このグラフの状況からは、小中学生ともに自分が地域のために主体的に考えようとする割合が低い状況が伺える。



〔グラフ⑫-1：地域をよくするために考える（小学校）〕

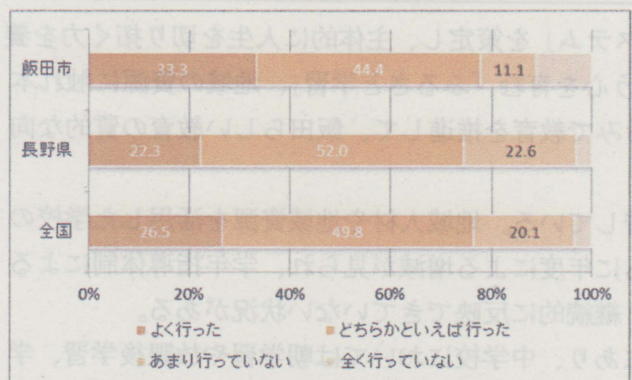


〔グラフ⑫-2：地域をよくするために考える（中学校）〕

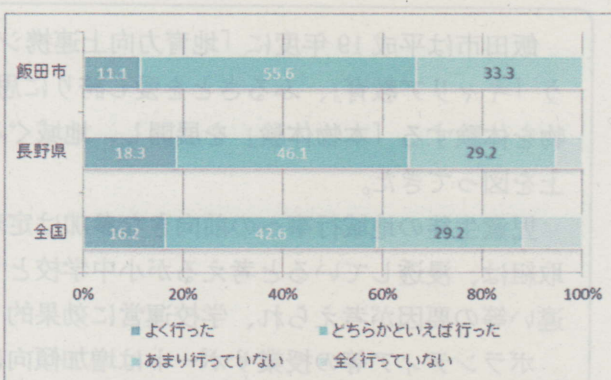
（２）地域の学校支援・学習支援について

飯田市は地域ぐるみで教育を推進する「地育力向上連携システム（※）」を活用しながら、地域と共にある学校づくりに取り組んでいる。以下の３つの学校質問紙調査結果から、地域の学校支援・学習支援について全国の調査結果と比較した。

〔※地育力向上連携システム：地育力を活用した「ふるさと学習」「体験」「キャリア教育」の取組など〕



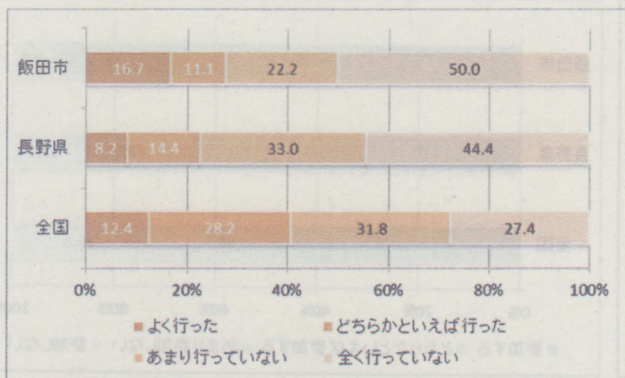
〔グラフ⑬-1：地域人材（外部講師）の授業した（小学校）〕



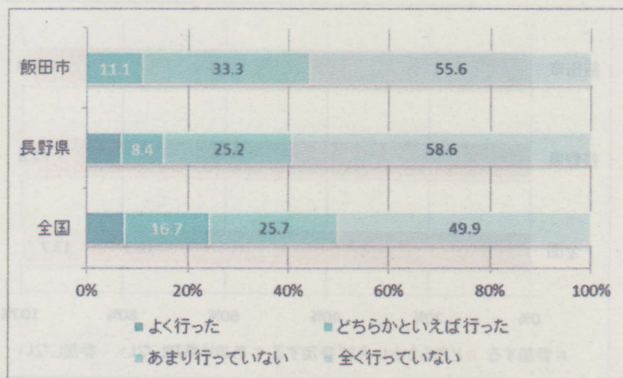
〔グラフ⑬-2：地域人材（外部講師）の授業した（中学校）〕

グラフ⑬-1 から、小学校の「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った」割合は 77.7% であった。昨年は 68.4% であり 9.3 ポイント増加した。

グラフ⑬-2 から、中学校の割合は 66.7% であり、昨年度の 77.8% から 11.1 ポイント減少した。小中学校共に、年度による地域人材活用授業の増減が見られる。

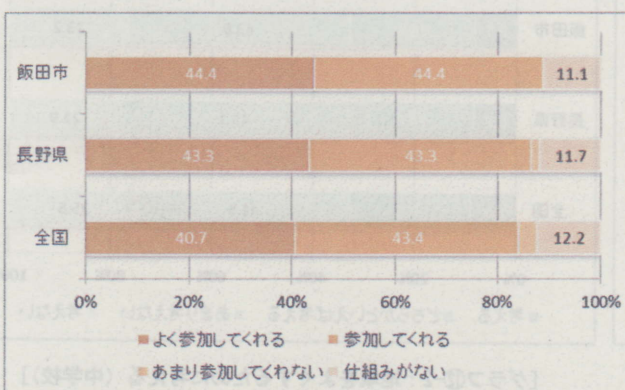


〔グラフ⑭-1：ボランティアの授業補助を行った（小学校）〕

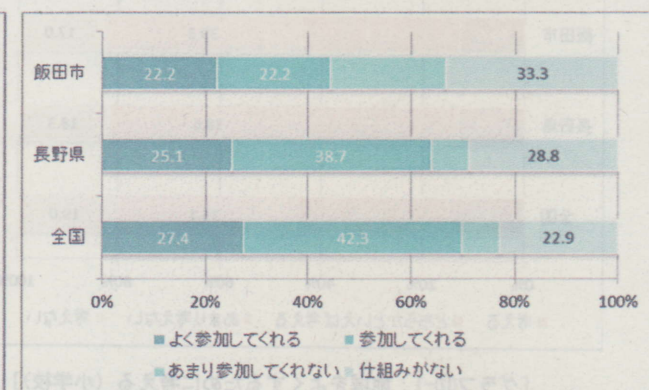


〔グラフ⑭-2：ボランティアの授業補助を行った（中学校）〕

グラフ⑭-1 から、小学校の「ボランティア等による授業サポート（補助）を行ったか」の割合は 27.8%であった。昨年は 5.3%であり 22.5 ポイント増加した。全国は 40.6%であり 12.8 ポイント下回っている。グラフ⑭-2 から、中学校の割合は 11.1%であり昨年と同じであった。全国は 24.2%であり、小学校と同様に下回っている。



〔グラフ⑮-1：学校支援の仕組みによる学校参加（小学校）〕



〔グラフ⑮-2：学校支援の仕組みによる学校参加（中学校）〕

グラフ⑮-1 から、小学校の「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校における教育活動や様々な活動に参加する」割合は 88.8%であった。全国は 84.1%で大きな差異はみられない。

グラフ⑮-2 から、中学校の割合は 44.4%であり昨年と同じであった。全国は 69.7%であり 25.3 ポイント低い。

飯田市は平成 19 年度に「地育力向上連携システム」を策定し、主体的に人生を切り拓く力を養う「キャリア教育」、ふるさとを愛し誇りに思う心を育む「ふるさと学習」、地域の資源に触れ本物を体験する「本物体験」を展開し、地域ぐるみで教育を推進して、飯田らしい教育の質的な向上を図ってきた。

児童生徒の地域行事への前向きな参加は定着している。地域人材や地域資源を活用した学校の取組は、浸透していると考えるが小中学校ともに年度による増減が見られ、学年指導体制による違い等の要因が考えられ、学校運営に効果的・継続的に反映できていない状況がある。

ボランティア等の授業サポートは増加傾向にあり、中学校においては朝学習や放課後学習、学習充実週間や長期休業中の学習支援にボランティアの活動を取り入れる動きが見られる。

本年度は、このような飯田市が築き上げてきた学校と地域が連携して子どもたちを育てる取組を土台にして、地域住民が「学校運営参画・学校支援・学校評価」を一体的持続的に実施していく仕組みを 2 ヶ年計画で「飯田らしいコミュニティスクール」として整えていく準備をしている。

IV 改善に向けた今後の取組について

1 授業改善について

○学力向上『結い』プランを意識した授業づくりは進んでいて、「ねらい」「見とどけ」における教師と児童生徒の意識のズレは差が縮まりつつある。

「ねらい」では学習課題の質の向上を、「見とどけ」では伸びる力を一層伸ばすことを意識した終末に取り組む事例が見られる。また、「めりはり」では中学校区内で9年間の学習スタイルを作成し、友との交流や協働する学習を確実に取り入れるなど改善に向けた取組もある。すべての教室でこのプランを意識した授業改善を一層進めたい。

○児童生徒が主体的に学習に取り組む場を設定する。一斉授業だけでなくペアやグループで意見交換したりホワイトボードや付箋を使って話し合ったりする授業など、児童生徒に主体的・協働的な問題発見や解決の場面を経験させたい。



○飯田市全体の各教科指導改善の方向については、6人の分析サポーター※1が飯田市の学校や児童生徒の実態をもとにしながら国語、算数・数学、理科の現状を多面的に分析した。領域ごとの指導改善のポイントを参考にしながら、自校の指導改善に努めたい。

[※1：小中学校別の調査教科に係る分析委員として飯田市校長会教育問題検討委員会から委嘱]

○中学校数学の結果分析から課題解決につながらない現状がある。指導内容や指導方法等について、教科会や学年会、中学校区研修会等で改善策に向けた熟議を深めたい。

2 学校の取組について

※2：別紙資料1参照

○H26年度調査結果を分析し、学校全体で成果や課題を全教職員で共有している割合は小学校94.4%・中学校100%であった。学級づくりを基盤に、明確な改善プランを教職員全員で共有し、連携・協働して指導改善に努めている様子が伺える。小学校高学年の一部教科担任制の導入や算数の一部単元テストを複数単元混合テスト作成へ等、工夫した取組に期待する。

○教師は同僚あつての専門職である。校内の授業研究会や研修会を、実践的具体的取組の検討（短期）と普遍的取組の検討（長期）のサイクル※2で位置付け、個の力量を高めたい。

3 家庭学習について

○中学校区内で家庭学習の内容や方法について問題意識を持ち、「9ヶ年の家庭学習の手引き」を作成し、家庭と学校で家庭学習の習慣化と内容の質的向上に向けて努めている。

○家庭学習のねらいを明確にし、児童生徒の生活スタイル・発達段階・授業との関わりを視点に、より効果的な家庭学習へシフトしていこうと実践研究を始めている。

例) 国語授業の「わかったこと・要点」を終末の5分でまとめ、それを家庭学習で百字帳1ページに再要約してまとめる。(鼎中学校の実践研究より)

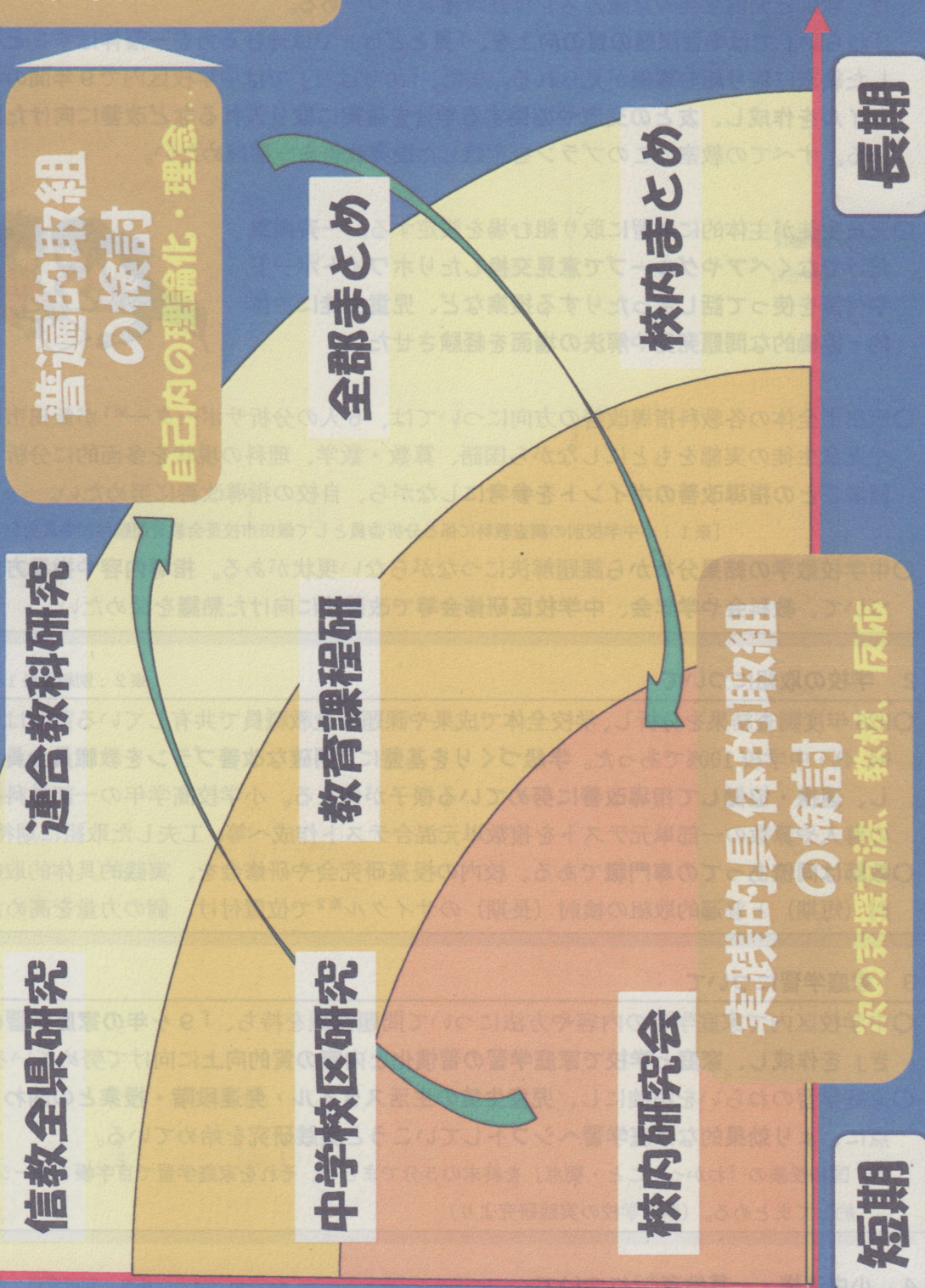
4 小中連携・一貫教育※3について

※3：別紙資料2参照

○中学校区ごとの小中学校間における教師の合同研修や交流、教育課程の接続などの連携は100%で飯田市の特徴である。さらに、学力向上に向けた一貫性のある指導を深めたい。

○地域と共にある学校づくりを目指し、「チーム○○中学校区」として校種を超えた協働と地域人材を活用した仕組みづくりが求められている。飯田らしいコミュニティスクールを整え、教育水準の向上にさらなる効果を生み出したい。

例
・下伊那教育
・信濃教育

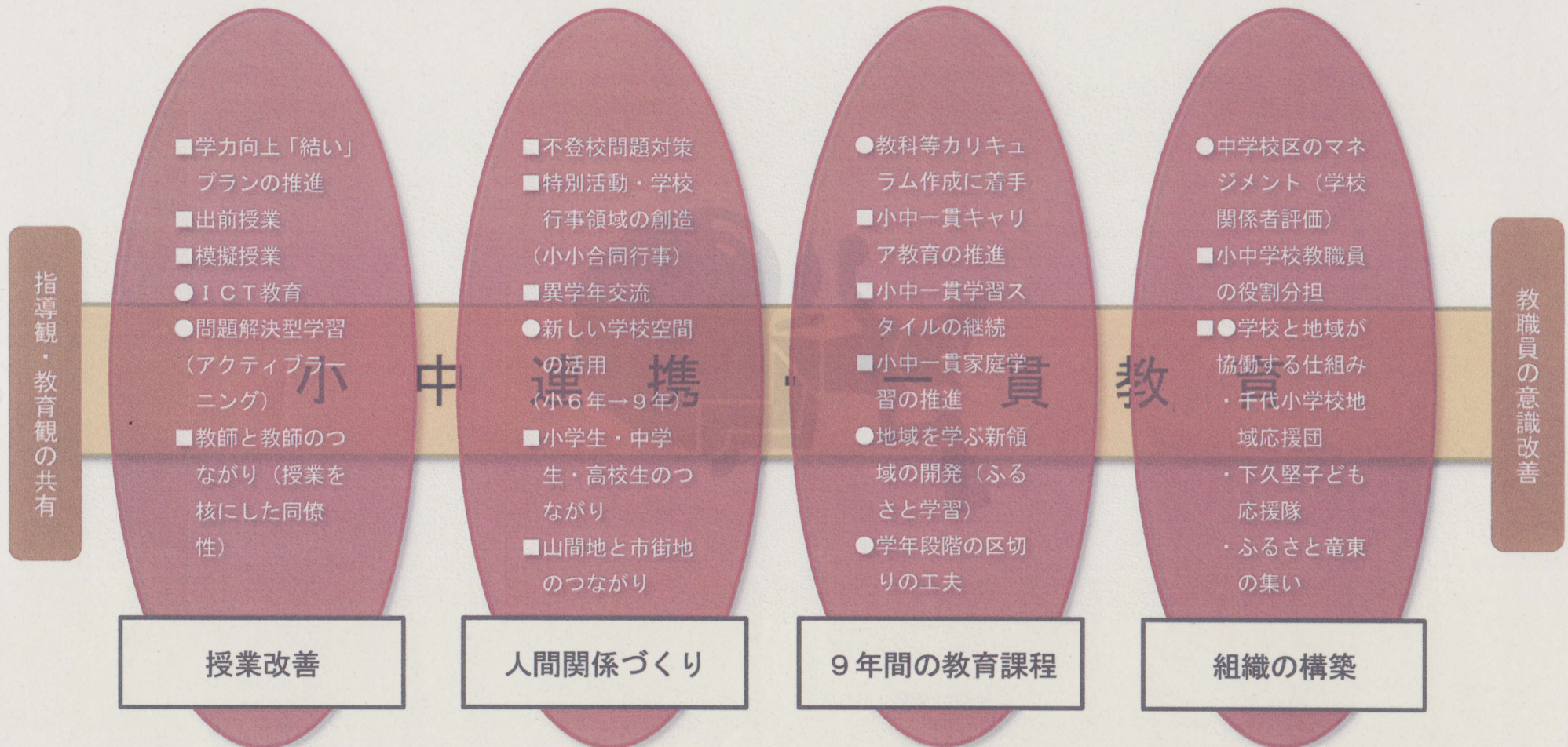


実践的具体的取組と普遍的取組の2つのサイクルを繰り返し力量を高める

深耕期の小中連携・一貫教育（「形」から「質」へ）

[下図の■は積み重ねてきた実践、●は課題・研究項目]

飯田市教育委員会



□小中連携・一貫教育は、与えられたものを受容するのではなく、学校も中学校区も市教委も「新たな価値」の創造をめざす
 □各中学校区のめざす子ども像が確立し、各中学校区の特性が見え始めた今、「質」へのアプローチに資源を投入する

※「質」＝授業改善、人間関係づくり、9年間の教育課程、組織の構築 「資源」＝学校のアイデア・実践、地域の資源（ひと・もの・こと）、行政の資源（事業、リーダーシップ）

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果分析について

飯田市教育委員会

1 教科に関する飯田市の調査結果について

[P 3 ~ P 7]

- 小学校では、すべての調査で全国平均と同水準であり、概ね良好な結果となった。国語Bの上位層の割合が全国よりも高い。算数Aが全国平均を僅かに下回った。
- 中学校では、国語が全国平均正答率よりも高く、数学と理科は全国平均と同水準であり、良好な結果となった。理科は全国平均を上回り、前回調査(H24)と比べ、改善が見られる。
- 同一学年(児童生徒)群の調査結果の経年変化から学力の推移を分析すると、国語は小学校時代より上昇しているが、数学と理科は伸び悩む状況が見られる。

2 教科の設問別正答率と指導改善の方向

[P 8 ~ P19]

- 小学校国語では、多くの設問で全国正答率と同水準か上回った。文章の表現や情報、図表やグラフ、絵や写真などを適切に引用する学習を大切にしたい。
 - 小学校算数では、全国正答率を下回る設問が目立つ。「図形」や「量と測定」で、多面的な見方を育むために、見通しを立てたり日常生活とつなげたりする学習を大切にしたい。
 - 小学校理科では、「地球」領域のすべての設問で全国正答率を下回った。月や星座の動き方の観察では、自分の観察結果を資料や友の結果と比較し確認する学習を大切にしたい。
-
- 中学校国語では、ほとんどの設問が全国正答率を上回った。活用する力をさらに伸ばすために、多様な資料収集の活動が経験できる言語活動を大切にしたい。
 - 中学校数学では、A問題で全国正答率を下回る設問が目立った。知識・技能に関する問題であっても、解決の手順や方法を考え書いたり説明したりする表現活動を大切にしたい。
 - 中学校の理科では、「地学」領域で全国正答率を下回る設問が目立つ。小学校の課題領域が継続していると見られる。自然現象とモデルを対応させ、整理する学習を大切にしたい。

3 質問紙調査の回答からみえる飯田市の分析結果

[P 20 ~ P28]

- 記述式問題の正答率と無解答率から、飯田市の児童生徒は活用する力を問う問題に対して、前向きに最後まで解答を書こうと努力する姿が伺え、学びを推進するエンジン「学びに向かう力」を持っている。唯一、小学校算数の無解答率が全国や長野県よりも少し高く、算数・数学の無解答率を減らす改善策について、教科会や中学校区研修会で熟議したい。
- 飯田市の児童生徒は家庭で宿題はするが、自分で計画的に勉強したり、学校の授業に関連した内容の予習や復習をしたりする割合が低く、特に本年度は小学生の授業に関連した予習や復習の状況に課題が見られた。
- 学力向上『結い』プランの成果を測ることができる授業の3観点の状況において、導入と終末での児童生徒と教師の意識のズレは改善しつつある。さらに、終末段階の知識・技能の確実な定着と、伸びる力を一層伸ばすことを意識した終末のあり方を教科会や学年会で確認し合い、「学習課題」や「まとめ」の板書シートを活用したり「めりはり」のある授業づくりに取り組みたい。また、校種を超えた小中学校の協働は100%で全国や長野県を大きく上回り、飯田市の強みである。
- 児童生徒の地域行事への前向きな参加は定着している。地域人材や地域資源を活用した学校の取組も浸透している。ボランティア等の授業サポートは増加傾向にあり、中学校においては朝学習や放課後学習、学習充実週間や長期休業中の学習支援にボランティアの活動を取り入れる取組が見られる。



(1) 授業改善について

○学力向上『結い』プランを意識した授業づくりは進んでいて、「ねらい」「見とどけ」における教師と児童生徒の意識のズレは差が縮まりつつある。

「ねらい」では学習課題の質の向上を、「見とどけ」では伸びる力を一層伸ばすことを意識した終末に取り組む事例が見られる。また、「めりはり」では中学校区内で9年間の学習スタイルを作成し、友との交流や協働する学習を確実に取り入れるなど改善に向けた取組もある。すべての教室でこのプランを意識した授業改善を一層進めたい。

○児童生徒が主体的に学習に取り組む場を設定する。一斉授業だけでなくペアやグループで意見交換したりホワイトボードや付箋を使って話し合ったりする授業など、児童生徒に主体的・協働的な問題発見や解決の場面を経験させたい。



○飯田市全体の各教科指導改善の方向については、6人の分析サポーター※が飯田市の学校や児童生徒の実態をもとにしながら国語、算数・数学、理科の現状を多面的に分析した。領域ごとの指導改善のポイントを参考にしながら、自校の指導改善に努めたい。

〔※：小中学校別の調査教科に係る分析委員として飯田市校長会教育問題検討委員会から委嘱〕

○中学校数学の結果分析から課題解決につながらない現状がある。指導内容や指導方法等について、教科会や学年会、中学校区研修会等で改善策に向けた熟議を深めたい。

(2) 学校の取組について

○H26年度調査結果を分析し、学校全体で成果や課題を全教職員で共有している割合は小学校94.4%・中学校100%であった。学級づくりを基盤に、明確な改善プランを教職員全員で共有し、連携・協働して指導改善に努めている様子が伺える。小学校高学年の一部教科担任制の導入や算数の一部単元テストを複数単元混合テスト作成へ等、工夫した取組に期待する。

○教師は同僚あつての専門職である。校内の授業研究会や研修会を、実践的具体的取組の検討（短期）と普遍的取組の検討（長期）のサイクルで位置付け、個の力量を高めたい。

(3) 家庭学習について

○中学校区内で家庭学習の内容や方法について問題意識を持ち、「9ヶ年の家庭学習の手引き」を作成し、家庭と学校で家庭学習の習慣化と内容の質的向上に向けて努めている。

○家庭学習のねらいを明確にし、児童生徒の生活スタイル・発達段階・授業との関わりを視点に、より効果的な家庭学習へシフトしていこうと実践研究を始めている。

例) 国語授業の「わかったこと・要点」を終末の5分でまとめ、それを家庭学習で百字帳1ページに再要約してまとめる。(鼎中学校の実践研究より)

(4) 小中連携・一貫教育について

○中学校区ごとの小中学校間における教師の合同研修や交流、教育課程の接続などの連携は100%で飯田市の特徴である。さらに、学力向上に向けた一貫性のある指導を深めたい。

○地域と共にある学校づくりを目指し、「チーム〇〇中学校区」として校種を超えた協働と地域人材を活用した仕組みづくりが求められている。飯田らしいコミュニティスクールを整え、教育水準の向上にさらなる効果を生み出したい。